

・景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：（株）北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	スーパー（店長）	・不景気感も一段落し、株価も回復基調にある。前年の米国の大手金融機関の破たんのような悪影響もみられないことから、今後についてはやや良くなる。
		スーパー（店長）	・民主党が政権与党となったため、今後の景気対策が期待できる。
		家電量販店（経営者）	・エコポイント制度や定額給付金の給付による効果で省エネ家電の販売が伸びており、今後についても期待できる。
		家電量販店（地区統括部長）	・エコポイント制度の効果が年末まで継続する。
		住宅販売会社（経営者）	・補正予算の効果がじわじわと出てきている。公共工事も徐々に増えてきているため、客のムードも良くなる。
	変わらない	商店街（代表者）	・経済情勢や新型インフルエンザの影響によっても変わってくるが、客単価が低下している現在の流れは今後も続くため、秋冬商戦は苦戦する。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・今はお金を使うムードではないという客が多いため、今後についても変わらない。
		一般小売店〔酒〕（経営者）	・最近の売上動向をみると、10日単位といった短い期間で売上が良くなったり、悪くなったりしている。今年に入ってから、一進一退の状況が続いているため、今後についても変わらないまま推移する。
		百貨店（役員）	・総選挙後の動向も含めて、今後への不透明感が強すぎるため、様子見がしばらく続く。
		スーパー（店長）	・原油相場が上昇しており、また政治の動きも変わる可能性が高いことから、今後についても客の生活防衛意識は大きく変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・道路工事の増加により、朝の男性客が増えているなど、景気刺激策の効果を感じる部分もあるが、買上点数が伸びていないなど、依然として財布のひもが固く、今後についても変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・自動車産業が復調しているが、前年との比較では大幅に減少しているのが実情である。他の製造業も厳しい状況が続いており、消費の回復はまだ先が見えない。政局の変化が経済にプラスの影響を与えても、小売まで影響が出てくるのは、しばらく先となる。
		コンビニ（エリア担当）	・他系列のコンビニやスーパーなどの競合店の閉店により、売上が増加傾向にあるが、低単価商品の売上が増加しており、来客数の増加率に対して、売上面でのかい離が大きくなっているため、今後についても変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・コンビニを含めて小売業界は現在下向きになっており、今後の動向については不透明な面がある。周辺環境要因を含めても、厳しいことには変わらない。
		衣料品専門店（店長）	・今までもあまり良くなかったが、秋に差しかかり、灯油などの費用もかかるようになるため、今後についても悪いまま変わらない。
		家電量販店（店員）	・エコポイント制度の効果で、薄型テレビや冷蔵庫は前年よりも売上が伸びるが、その他の家電商品は買い控えが出てくるため、今後については変わらない。
		観光型ホテル（経営者）	・9月の大型連休以外、宿泊予約が前年を下回っており、10～11月にかけても予約数が伸び悩んでいる。
		旅行代理店（従業員）	・今後の新型インフルエンザの動向によって左右される。
		旅行代理店（従業員）	・9月の大型連休の効果もあり、9月の販売額は前年を上回っているが、10月以降の受注の動きが鈍く、下期商品の発表後も同様の傾向が続いている。客単価も改善がみられず、商品も低価格傾向が続いており、秋口から冬場にかけてはあまり期待できない。
	旅行代理店（従業員）	・9月の大型連休の効果でやや上向くとみていたが、新型インフルエンザの再流行を機に、旅行の中止や延期が始まっており、需要が更に先延ばしとなっている。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・タクシーの規制緩和の見直しが10月1日から実施されることに期待していたが、政権が変わったことで、今後の動きが不透明となっている。そのため、景気が急に良くなることはない。
		タクシー運転手	・電話注文数が増加するような要因が見当たらないため、今後についても変わらない。
		観光名所（役員）	・修学旅行の予約状況等から、秋の観光入込に若干の明るさもあるが、新型インフルエンザの流行など、マイナス材料も多々あるため、今後、状況が好転することは難しい。
		美容室（経営者）	・総選挙後の状況を見てからという雰囲気が強く、お金の使い方に慎重になっている。今後への期待と不安が交錯しており、様子見の状況が続く。
		美容室（経営者）	・不安要素はあるものの、来客数や客の様子が安定していることから、今後も変わらない。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・予約件数の推移から、今後についても変わらないまま推移する。
		設計事務所（所長）	・良くなる要素が見つからない。これ以上悪くなりえないところまできている。
やや悪くなる		百貨店（売場主任）	・新型インフルエンザが流行しているなか、今後、当地域で新型インフルエンザが発生すれば、大型店への客の来店促進が非常に難しくなり、販売に影響を及ぼすことになる。
		スーパー（企画担当）	・客の購買が特売日やポイントセールに集中する週末にシフトする傾向がみられ、平日の買物頻度が伸び悩んでいる。今後も、来客数が前年を下回る傾向が続く。
		スーパー（役員）	・お盆については、レジャー等を控えた層が増えたことにより、内食傾向につながったが、数値の推移をみると、いまだに景気が下げ止ったとはいえず、今後についてはやや悪くなる。
		スーパー（役員）	・総選挙の結果によって変わってくるが、政治の停滞が発生することで、景気の改善が遅くなる。
		乗用車販売店（従業員）	・減税効果で高まっていた新車購入に対する客の意欲が薄れており、これから販売台数が減ってくる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・いよいよコンビニが医薬品販売に動きだしてきたことから、競争相手が増加することになり、今後についてはやや悪くなる。
		高級レストラン（スタッフ）	・総選挙で政権交代となり、公共事業が減少することになれば、建設関係の接待が減少する。また、夏から秋の農作物が不作続きで、農業関係者が消費を抑え始めていることから、今後については、じわじわと悪くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・一連の経済対策で一部の指標に回復傾向がみられるものの、一般生活においては、余裕の持てない状況が続いているため、根強い不況感は今後も衰えない。今後の新型インフルエンザへの懸念もあり、紅葉シーズンの予約状況も悪い状態が続く。前向きな材料が全くない状況である。
		旅行代理店（従業員）	・法人需要の低迷に加えて、新型インフルエンザの流行が懸念されていることから、今後についてはかなり厳しい状況となる。
		旅行代理店（従業員）	・新型インフルエンザの流行が加速すれば、空港や観光地など、人込みを避ける傾向が強くなる。特に修学旅行などの学生の団体旅行は、教育委員会や学校側が旅行の実施について、慎重な判断をすることになる。
		通信会社（企画担当）	・政権交代に伴い、大型投資等の動向に対しての様子見が増え、お金が動かなくなる。
		観光名所（職員）	・全国的及び世界的に広まっている新型インフルエンザの影響が観光地にも出てくる。
企業動向関連	悪くなる	-	-
	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（団体役員） 建設業（経営者）	・工場用地取得や設備投資計画等の話題があり、見通しに明るさが見受けられる。 ・受注工事が最盛期に入り、人、物、金の動きが活発になる。ただし、量的にも採算性の面でも非常に厳しい。また、政権交代の影響がどのような形で出てくるのが不透明であり、先が読めない不安もある。
変わらない	家具製造業（経営者）	・住宅着工件数が改善しないなか、リフォーム需要を期待したいが、市場が成熟するには、まだしばらくの時間が必要であるため、今後についても変わらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		建設業（従業員）	・政権交代を見越して、補正予算の執行が抑制されていたのか、期待していたほどの発注量がみられないなか、政権交代が確定し、今後しばらくは公共工事発注の動きが鈍くなる。
		輸送業（支店長）	・取引先の案件にあまり期待できるようなものがないため、2～3か月先の状況も今と変わらない。
		通信業（営業担当）	・現状からの一層の景気浮揚には材料不足である。また、政権が代わった場合には、社会全体が様子見になることから、今後については、再度の下降とまではいかずとも現状維持が精一杯となる。
		金融業（企画担当）	・公共投資予算が久々の大幅増加となり、工事は最盛期を迎えるが、住宅着工、設備投資は大幅に落ち込む。秋の観光は旅行需要の減少に加えて、新型インフルエンザの流行が懸念されることから、低迷が続く。
		司法書士	・国の経済政策が明確にされない限り、回復は望めない。新政権の経済政策にも少なからず不安がある。
		司法書士	・政権交代が起きれば、景気上昇への期待感は増すが、実際の政策などを見てから判断しようと、様子見の動きが増えるため、今後2～3か月については変化が少ない。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	・地元経済の基幹産業である農業が天候不順で不作となっており、農家の購入意欲が減少する。
	やや悪くなる	その他非製造業〔鋼材卸売〕（役員）	・客先である鉄骨加工業者の仕事が消化されており、新規物件に乏しいため、今後についてはやや悪くなる。また、鉄骨加工業者では、仕事量が少ないなか、ゼネコンからの安値指示により収益が圧迫されており、その影響が当社にも及んでいる。
	悪くなる		
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・改善傾向は今後も続く。ただ、前年の最悪期との比較であり、見かけ上減少幅が改善するだけで、求人の絶対数は低調なまま推移する。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・企業業績の回復傾向が見えるようにならなければ、企業における中途採用や派遣のニーズは増加傾向とはならない。地場のサービス関連企業では、業績向上の見通しが付いていないようであり、家電量販店も年末まではキャンペーンできる商品がないため、今後の派遣ニーズに大きな変化はない。唯一、携帯電話の販売における派遣ニーズがやや上向いている程度である。
		人材派遣会社（社員）	・コールセンターでは若干の求人があるものの、事務系については、依然として求人数が落ち込んでいる。繁忙期となっても、社内に対応するという企業も多く、今後については変わらない。
		求人情報誌製作会社（編集者）	・季節型や臨時雇用型の求人は増えているが、正社員の求人を喚起する需要が見当たらないことから、今後も変わらない。
		職業安定所（職員）	・新規求人数の低迷傾向は続くが、新規求職者の増加傾向は鈍化していく。
		職業安定所（職員）	・雇用保険の資格喪失者のうち、事業主都合離職者が前年から5.7%増加し、12か月連続の増加となったことから、今後についても変わらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・当面は山積する課題の解消に相当の時間を要するため、今後については大きくは変わらない。2～3か月後は大学3年生向けの情報サイトがオープンし、その後、業界セミナー等も展開されるが、前年並みの内容と流れを期待している。
		やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	-	-

2. 東北（地域別調査機関：（財）東北開発研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	一般小売店〔酒〕（経営者）	・店舗改装の実施により、今後の売上増加が期待できる。
	やや良くなる	百貨店（企画担当）	・政権交代により、早期の政策実行はなくとも、国の方向性が安定することで景気に良い影響が予想される。
		コンビニ（経営者）	・タバコや弁当は前年を上回って推移しており、今後も期待できる。
		コンビニ（エリア担当）	・天候の回復に伴い、今後は来客数、客単価共に回復が期待できる。
		乗用車販売店（経営者）	・環境対応車への減税や補助金により、新車購入を前倒しする客が増加しており、年内は納車待ちの状況が続く。
		都市型ホテル（スタッフ）	・景気対策の効果で底打ち感が広がっており、総選挙の結果や施策によっては、今後期待が持てる。
		観光名所（職員）	・個人の来客数が増加傾向にあり、9月の大型連休にも高速道路料金引下げの効果が期待できる。
	変わらない	商店街（代表者）	・景気は底を打った状態が続いており、厳しい状況は変わらない。
		商店街（代表者）	・閉店して使われていない商店街の店舗の一部で出店の動きがあるが、他に景気が良くなる要因は見当たらない。
		商店街（代表者）	・今後、秋冬物衣料の売出しが始まり、さらに商店街の取り組みである農商連携の効果にも期待しているが、景気を押し上げるには至らない。
		一般小売店〔スポーツ用品〕（経営者）	・総選挙後に即効性を有する景気対策は期待できない。また、中心街区の再開発計画も実行には時間を要する。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・総選挙は終了したが、繁華街の人通りは少なく、飲食客の増加は期待できない。
		一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・消費者の必要なものしか買わない傾向は続くが、来客数は今後も安定して推移する。
		百貨店（広報担当）	・今後も生活防衛型の消費傾向が続き、客単価の回復には時間を要する。
		百貨店（売場担当）	・消費者は、あるもので間に合わせ、必要のないものは買わない傾向が今後も続く。
		百貨店（経営者）	・低価格の買い回りによる厳しい状況は続くが、食品や日用品で売上が回復する傾向もみられる。
		百貨店（経営者）	・個人所得が増えず、消費行動が好転するほどの景気回復には至っていない。
		スーパー（店長）	・来客数、1品単価共に今後も低迷する。
		スーパー（店長）	・来客数は前年並みに回復しているが、1品単価、買上点数共に前年を下回っており、客の低価格志向は今後も続く。
		スーパー（店長）	・日照不足と冷夏の影響で野菜の価格が高騰する一方で、消費者の低単価志向が強まっており、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・消費者はチラシ特売品に敏感な反応を示しており、今後も低価格品を求めて来店する傾向が続く。
		スーパー（店長）	・総選挙後も、景気回復の要因はみあたらず、厳しい状況が続く。
		スーパー（営業担当）	・一部製造業の受注は回復しているものの、全体的な景気回復ではないため、消費者の節約志向は当分続く。
		コンビニ（経営者）	・求人雑誌はすぐに品切れになるが、ページ数が減少している。新聞でも失業率の悪化が伝えられており、今後も見通しは暗い。
		コンビニ（エリア担当）	・売上が低迷しており、回復要因は見当たらない。
		コンビニ（エリア担当）	・景気の底打ち感は広がっているが、景気回復の要素は見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・総選挙後は政治経済の混乱が続き、景気回復には半年以上かかる。
	衣料品専門店（経営者）	・総選挙後の景気対策に期待したいが、地方では中小企業の倒産が増加傾向にある。	
	衣料品専門店（経営者）	・景気が良くなる要素は見当たらない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店(店長)	・今後も天候不順の影響が予想され、今後も状況に変化は期待できない。
		衣料品専門店(店長)	・気温の低下で例年より早く秋物が動いているが、客との会話から景気の先行きへの不安は続いている。
		衣料品専門店(総務担当)	・既存店、新規店共に売上不振が続いており、景気回復の兆しはみえない。
		家電量販店(店長)	・エコポイント対象商品の売上は好調であるが、消費マインドは冷え込んでおり、今後厳しい状況が続く。
		家電量販店(店長)	・総選挙後の景気対策には期待もあるが、先行き不透明な状況は続く。
		乗用車販売店(経営者)	・折込チラシで車検費用を比較する客が増加し、低価格志向の強まりで厳しい状況が続く。
		乗用車販売店(経営者)	・フルモデルチェンジやマイナーチェンジにより売上増加を期待しているが、販売台数予測は難しい。
		乗用車販売店(経営者)	・ハイブリッド車以外の問い合わせも増加しているが、車を手放す動きもみられ、整備の入庫台数は低下が予想される。
		住関連専門店(経営者)	・総選挙後の景気対策には期待するが、景気の回復には相当時間がかかる。
		住関連専門店(経営者)	・所得の減少により、今後客の買い控えや買い回りが続く。
		その他専門店[酒](経営者)	・9月の大型連休には、県外からの観光客数増加が予想されるため、売上の増加が期待できる。
		その他専門店[酒](営業担当)	・商品が動く季節に入るが、売上の増加は難しい状況が予想される。
		その他専門店[白衣・ユニフォーム](営業担当)	・新型インフルエンザ流行の兆しがみられ、マスクの需要は増加しているため、メーカーの供給不足によるパニックが懸念される。
		その他専門店[ガソリンスタンド](営業担当)	・原油価格の上昇を小売価格へ転嫁しにくく、需要期の冬に向けて原油価格が上昇すると、業界の景気は悪化する可能性もある。
		その他専門店[ガソリンスタンド](営業担当)	・売上のために販売単価を下げているが、収益を圧迫しており、今後の経営悪化が懸念される。
		高級レストラン(支配人)	・総選挙後の景気回復に多少の期待感はあるが、個人所得が増加しない限り、消費回復は期待できない。
		一般レストラン(スタッフ)	・来客数が増加しており、今後の売上増加が期待できる。
		スナック(経営者)	・接待等の来客数が減少しており、今後も売上低迷は続く。
		観光型ホテル(スタッフ)	・高速道路料金引下げの効果で遠方からの宿泊客は増加しているが、地元企業や個人客のリピーターが回復するには相当な時間を要する。
		都市型ホテル(スタッフ)	・今後法人の予約状況は低迷が予想される。
		タクシー運転手	・タクシー業界では、初乗り料金を下げている会社が出てきており、客もタクシーを選別する傾向が強まっていることから、今後も厳しさを増す。
		タクシー運転手	・今後も、当分タクシーの乗り控えが続く。
		通信会社(営業担当)	・今後も個人消費が回復する要因が見当たらない。
		通信会社(営業担当)	・総選挙後の期待感はあるが、景気の回復には相当な時間を要する。
		通信会社(営業担当)	・自動車業界では残業を再開した会社もあるが、地方の製造業が活気を取り戻すには時間がかかる。
		通信会社(営業担当)	・景気回復の要因はみられない。
		遊園地(経営者)	・新型インフルエンザ流行への懸念など、先行き不透明な状況にあるが、来客数は前年並みで推移する。
		設計事務所(経営者)	・短期の受注はあるが、長期の受注が増えなければ、景気回復はまだ先である。
	やや悪くなる	一般小売店[医薬品](経営者)	・景気対策の効果は感じられるが、先行きの不安も強まっており、消費には慎重な傾向が続く。
		百貨店(経営者)	・総選挙後の先行きは不透明だが、公務員の給料の引下げに伴い、売上減少が予想される。
		スーパー(経営者)	・冷夏による農産物価格高騰が懸念される。
		スーパー(店長)	・消費者の生活防衛意識が更に強まり、1品単価、買上点数共に今後も前年を下回って推移する。
		衣料品専門店(店長)	・景気回復は実感できず、買い控えによる来客数や客単価の低迷が予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		住関連専門店（経営者）	・不採算部門の閉鎖や在庫処分値引き販売を実施しているが、収益改善には相当な時間を要する。
		高級レストラン（経営者）	・最悪の状況が続いており、景気回復の要因が見当たらない。
		その他飲食〔弁当（スタッフ）〕	・一度引下げた弁当の単価を上げるのは難しく、売上は低迷する。
		観光型旅館（経営者）	・前年に比べて連休以外の予約が減少しており、宿泊予約がゼロの日も発生している。客はレジャーや旅行への支出を控える傾向が強まっている。
		観光型旅館（経営者）	・政権交代後は、政策に対する消費者の静観が予想され、今後の購買動向は期待できない。
		旅行代理店（店長）	・新型インフルエンザ流行を懸念して、旅行の中止や延期が増加する。
		テーマパーク（職員）	・政権交代後の景気対策は、効果が不透明であり、失業率の上昇が予想される。
	悪くなる	商店街（代表者）	・総選挙後に政治が安定するまで、先行き不透明な状況が続く。
		商店街（代表者）	・今後は客の節約傾向が強まる。
		一般小売店〔雑貨〕（企画担当）	・雇用環境の悪化により個人所得が減少し、政権交代で生活の先行きが不透明になることから、個人消費の低迷が続く。
		スーパー（経営者）	・失業率の上昇など雇用情勢の悪化を背景に個人所得は減少し、今後も消費者の低価格志向が強まる。
		スーパー（経営者）	・雇用情勢の悪化や価格競争の激化、さらに天候不順による米の不作や野菜の価格高騰など、今後も経営は厳しくなる。
		自動車備品販売店（経営者）	・環境対応車への減税と補助金を利用した新車購入の増加により、自動車整備機工場などでは車検整備件数の激減が懸念される。
		一般レストラン（支配人）	・新型インフルエンザ流行の懸念から、飲食関係は来客数、売上共に減少が予想される。
		都市型ホテル（経営者）	・連休の宿泊や会合の予約が低迷しており、新型インフルエンザも懸念されることから、売上は厳しさを増す。
		都市型ホテル（スタッフ）	・総選挙の影響か、一般宴会、宿泊共に前年に比べ5割程度の予約状況である。大河ドラマの舞台が隣県に移るために今後の観光客増は期待できず、新型インフルエンザの拡大によるビジネス客への影響も懸念される。
		旅行代理店（従業員）	・定額給付金の効果で3月以降は売上が若干回復しているが、今後は定額給付金の効果は期待できない。
		旅行代理店（従業員）	・新型インフルエンザ流行による影響は予測できない。
		住宅販売会社（従業員）	・受注量は年内分を確保しているが、年明け以降の受注が全くない。
企業動向関連	良くなる	-	-
		やや良くなる	
	やや良くなる	農林水産業（従業者）	・天候が安定し、果実の品質向上が期待できることから、桃の晩生種にも前年並みの予約注文が来ている。
		電気機械器具製造業（企画担当）	・取引先の生産意欲が強まっていることから、今後の景気回復に期待できる。
		金融業（広報担当）	・公共投資の効果が個人消費につながれば、景気の押し上げが期待できる。
		広告業協会（役員）	・流通関係では店頭の販売促進を強化しており、広告予算を増やす動きがある。
		その他非製造業〔食料品卸売業〕（経営者）	・景気に下げ止まりの傾向が続けば、秋冬物の販売に期待できる。
		金属工業協同組合（職員）	・取引先から至急の見積依頼が増加してきている。
		変わらない	食料品製造業（経営者）
	食料品製造業（経営者）		・9月の大型連休で売上の増加も期待されるが、総選挙後の先行きは不透明である。
	食料品製造業（総務担当）		・売上低迷に加え、原材料費や燃料費の価格上昇により、収益面でも厳しい状況が続く。
	木材木製品製造業（経営者）		・住宅需要の伸び悩みが続いており、回復するまでには相当な時間を要する。
	一般機械器具製造業（経理担当）		・円高が懸念されるが、自動車部品の受注量に大きな変化はない。
建設業（企画担当）	・製造業の一部では、凍結中の設備投資を再開する兆しがみえてきたが、実際に動きが出るのは当面先となる。		
輸送業（経営者）	・物流の低迷は当分続くことが予想される。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業（営業担当）	・景気に変化する要因が見当たらない。
		広告代理店（経営者）	・通信関係では、広告出稿が前年を30%下回って推移しており、当分回復は期待できない。
		司法書士	・景気が回復する要因が見当たらない。
		公認会計士	・取引先の受注状況は低迷しており、経営状況の改善は当分見込めない。
		コピーサービス業（経営者）	・補正予算や新年度予算で官公庁、民間共に動きがみられるが、今のところ当業界への波及効果はみられない。
		その他非製造業〔飲食料品卸売業〕（経営者）	・売上、収益共に低迷しており、景気回復のきっかけがみつからない。
	やや悪くなる	その他企業〔企画業〕（経営者）	・景気対策で住宅ローン減税などが始まっているものの、消費者の反応が鈍く、今後も厳しさを増す。
		農林水産業（従業者）	・米は作況が悪く、販売価格の上昇も見込めない。
		建設業（経営者）	・大口の新築工事は受注がなく、今後も小口工事の受注を多数の同業者で取り合うため、収益の悪化は続く。
		建設業（従業者）	・政権交代後の公共投資の見直しで先行きが不透明になる。民間投資の低迷は今後も続く。
		通信業（営業担当）	・更新時に取引先の値下げ要請は強まっており、この傾向は今後も続く。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・地域の基幹産業である水産業の景気低迷が続き、リストラやボーナス減額につながっている。新聞購読を止めるなど消費者の財布のひもが固くなっており、さらに景気が悪化する可能性がある。
	悪くなる	繊維工業（営業担当）	・総選挙後は政治経済が不安定になるため、今後も景気は悪化する。
出版・印刷・同関連産業（経理担当）		・年末にかけて各業界ともリストラが一段と進み、個人消費の低下とともに景気は悪化していく。	
その他企業〔管理業〕（従業者）		・雇用調整で約1,000人の退職者が見込まれ、今後も厳しい状況が続く。	
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・雇用対策の入札案件でも、落札単価が最低賃金に近づいており、今後も求人数は低迷する。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・総選挙後、新政府の出す政策が流通、製造業に効果があるか現時点では分からない。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・人員の余剰感が強く、企業の新規採用数は今後も低調に推移する。
		職業安定所（職員）	・求人数回復の要因はみられず、今後も厳しい状況が続く。
		職業安定所（職員）	・新規求人数の減少と雇用調整が続き、今後も新規求職者数は高い水準で推移する。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は低迷し、企業の雇用調整も続いている。
		職業安定所（職員）	・有効求人倍率は下降傾向に底打ちしたが、今後も厳しい状況は変わらない。
		職業安定所（職員）	・一部の製造業者は増産も派遣求人で対応しており、大企業では希望退職者を募集する動きが続いている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数は減少し、企業整備の予定があるため、今後も厳しい状況は続く。
		職業安定所（職員）	・雇用調整は今後も予想されるが、新規の相談は減少している。
		職業安定所（職員）	・増加の動きが見られるが、新規求人数は前年の20%減少しており、新たに雇用調整を実施する企業からの相談がある。
		職業安定所（職員）	・賃金の減少により財布のひもは固くなり、物が売れないため生産活動は冷え込み、そして雇用環境の悪化が賃金を減少させている。このサイクルは当分続く。
	やや悪くなる	人材派遣会社（社員）	・今後も派遣契約を終了したいという取引先からの相談が増加する。
		人材派遣会社（社員）	・エリア内の統合を理由に事業所を撤退する企業が相次ぎ、今後の地域経済に与える影響は大きい。
	悪くなる	人材派遣会社（社員）	・派遣契約などの間接雇用を直接雇用へ切替える企業が増加している。
		アウトソーシング企業（社員）	・国の出先機関から受注が安定しない限り、今後も厳しい状況は続く。

3. 北関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
( - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない )			
分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	コンビニ（経営者）	・ 8月前半の雨、後半の晴れ、どちらも店にとってはプラスである。新しい顔ぶれの客も増えている。来年の大きな祭りに向けての会合や観光での秋の入込み、増えた客に合わせ、更なる品ぞろえに挑戦していけば売上はついてくる。
	やや良くなる	一般小売店〔家電〕（経営者）	・ テレビのデジタル化のため買換えが増加している。
		百貨店（販売促進担当）	・ 昨年の米大手証券会社の破たん以降、売上の低下が続いているが、1年経過することで下げ幅は前年よりも改善される。ここにきて新型インフルエンザの影響が懸念されるが、大きな事件がなければ景気はやや回復する。
		スーパー（店長）	・ 今のままで行けば、9月は前年比121%、10月は122%の来客数となり、売上は確保できる。
		家電量販店（店長）	・ エコポイント商品の年末年始商戦には期待が持てる。
		旅行代理店（従業員）	・ 新型インフルエンザの報道による今後の動向だが、春先は報道の激化によって客が旅行を控えていたが、大したことは無いという客が増えるのではないかと楽観視している。
		ゴルフ場（業務担当）	・ 先月は来客数の増加があまり見込めなかったが、今月に入って、価格を下げたこともあり、堅調に伸びており、先行きが良いからと感じている。2、3か月先の取り込みについて、9月は苦戦しているが、10、11月のコンペの引き合いも来ている。
	変わらない	住宅販売会社（従業員）	・ 一部企業の景況感に改善の兆しがあることから経済全体に波及効果が期待できる。
		商店街（代表者）	・ 近郊の工場は、週3日出て4日休む状況が続いている。工場等がフル活動をして地域の人々が買物をしないことには良くならない。
		商店街（代表者）	・ 周辺企業に景気底打ち感が出ていない。客は必要な物以外買い控えている。
		百貨店（営業担当）	・ 総選挙の結果に非常に左右されると思うが、客の節約、すべてにおいての慎重な買物も含めて厳しくなる。ただ、いろいろな形で景気回復が行なわれれば、結果が出て来る。
		百貨店（営業担当）	・ 相変わらず、客の様子は慎重に買物をしている感じで、余計な物は一切買わない、悩んだ時も買わないというような様子である。
		百貨店（営業担当）	・ 10月までは今までどおり前年90%前後で変わらない。昨年厳しくなった11月からどうなるのかがポイントである。
		百貨店（販売促進担当）	・ 消費者の低価格に対するニーズは、より一層強まると思われる。来客数の増加が見込めない中、売上を確保することはより困難になる。
		コンビニ（経営者）	・ ここ2、3か月先は何の行事も無く、イベントも無いので、変わらない。
		コンビニ（店長）	・ 2、3か月先は、若干、落ちるとは思うが、年間としての流れは特別大きく下回ってくることはない。必要のあるものや興味のあるものは買うが、無いものは買わないという状況が、特別変わって行く様子はない。
		衣料品専門店（店長）	・ 年々、売上高が減少しており、秋冬物の購買力にも力強さが無い。
		乗用車販売店（営業担当）	・ 補助金を当てにした商談が少し増えている。当社でも数台契約があったが、まだまだ厳しい。
		乗用車販売店（営業担当）	・ エコカー減税の効果が薄れてきており、販売量の増加が見込めない。
		住関連専門店（仕入担当）	・ 9月の大型連休を控えるが、消費行動に変化は期待できず、家近レジャーに関わる商材のみの販売が見込める程度である。
住関連専門店（開発業務責任者）		・ 生活に対する不安感等が根強い。	
一般レストラン（経営者）	・ この先、売上は地元客が中心になるが、特にスナック関係の話によると単価の安い店に集まり、その店だけで解散してしまうので、客の動きが悪い。		
観光型ホテル（営業担当）	・ バスを利用した募集旅行は大幅に減少しているものの、個人客の増加でそれをカバーすることができている。しかし個人客の動向も新型インフルエンザ等に左右されるので、先行き不透明である。また客の財布のひもは固い。		



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（経営者）	・底で安定してしまっており、企業も活気が無く、すべてが停滞している。
		タクシー運転手	・会社員、公務員の給与も目減りしており、勤務帰りに飲み歩く人も減少し、景気回復はまだ先である。
		テーマパーク（職員）	・景気動向に加えて、新型インフルエンザによる影響で、訪日団体や学生団体などのキャンセルが懸念される。
		ゴルフ場（従業員）	・来場予約が前年と同じぐらいである。
		競輪場（職員）	・他の競輪場の記念競輪の売上が、前年度に比べ10%落ちている。
		その他レジャー施設 [アミューズメント] （職員）	・ライバル店との関係もあるが、どちらかといえば価格競争が中心となっていて、単価の下降傾向が見られるので、来客数がある程度増えたとしても全体的には厳しい。
		その他サービス[立体 駐車場]（従業員）	・近くの競合他社が1社閉鎖している。こちらに好影響かと思ったが、その影響はなかなか来客数に反映されず、また、単価に関しても底上げにはなっていない。景気については変わらず、横ばいでの推移となる。
		その他サービス [フィットネスクラブ] （マネージャー）	・企業の生産活動は活発にはなっていないが、仕事をシェアしており、収入が変わらないため、景気は横ばいと予測する。
		設計事務所（所長）	・相変わらず低迷が続いているが、来月、再来月と決算イベントがあるので、集客に期待したい。
	住宅販売会社（従業員）	・住宅展示場や現場見学会への来場者数が伸びず、また、来場者が購入を決断するまで時間が掛かっている。	
	やや悪くなる	一般小売店[乳業] （経営者）	・一般消費について上向きの要素が無い。まだまだ出費を抑える傾向である。
		一般小売店[家電] （経営者）	・一気に悪くなる様子はないが、徐々に消費内容も悪くなって来ている。より安価な物を求める消費者が増えている。
		スーパー（経営者）	・新型インフルエンザの影響が未知であり、購買意欲は更に低下する。
		スーパー（統括）	・食品単価はこの先まだ下がることが予測され、2番手3番手のメーカーの商品やプライベートブランド商品が売場を占めるようになっており、価格競争はしばらく続きそうである。
		コンビニ（経営者）	・先行きに対しての不安や実収入減により、消費できる立場の客層でも買い控えがでてくる。
		コンビニ（経営者）	・以前は、たばこのタスポカードが普及していなかったが、最近35%以上の普及になっており、手売りでは売れなくなって来ている。
		自動車備品販売店（経営者）	・身の回りの工場や会社が中国やベトナムに生産をシフトしている。日本国内で企業が会社を営むことが大変難しくなっており、仕事が失われている。客は物を買うことをかなり控えているので、これからも悪くなりそうである。
		高級レストラン（店長）	・夏には収まると思われていた新型インフルエンザが逆に拡大しており、秋から冬にかけて、深刻な状況が予想されるため、より一層、客の外出や消費マインドが冷え込むことが予想される。
		一般レストラン（経営者）	・慢性化のなか変わらないという印象ということは多少なりともマイナス方向へ進んでいると思われる。
都市型ホテル（支配人）		・ホテルの宿泊のメインであるビジネスマンからの予約が減っている。今後経済の回復に応じて増えてくると思うが、現時点で個人客、ビジネスマンの予約は前年比で20～30%減っている。	
旅行代理店（副支店長）	・新型インフルエンザの影響がどのくらい出るかわからないが、現状ではこの先の受注を見ているとかなり影響がある。また、一般のツアーも募集参加者が減少する。年末年始や9月の大型連休の受注も昨年と比べると減少している。また原油の値上げがここにきて少し出てきているのも気に掛かる。		
通信会社（経営者）	・得意先の状況を見ても、販売が例年の半分以下というところが多数を占めている。中央の景気回復の話は聞くが、地方の景気回復には最低でもあと半年は掛かるとの意見が多く、当社の実情をみてもそう思える。		
ゴルフ場（支配人）	・県外来場者を集客しようとしているが、土、日の高速道路の渋滞が悪影響し、集客が思ったより伸びない。		
美容室（経営者）	・美容院の来客数が増える良い要素が何もなく、秋に向かっておしゃれをする客があまりいない。		
悪くなる	商店街（代表者）	・環境対応車の減税や補助とエコポイントなどで多少は良くなる要素があるものの、生活全般は節約傾向で厳しい。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔酒類〕 (経営者)	・天候不順で、飲料水、ビールが相当不振であり、今後も回復の見込みがない。
		一般小売店〔青果〕 (店長)	・500メートルくらい先に、10月にまた1,500平米くらいの総合スーパーがオープンする。人口が減っているなか、このようなスーパーが出来るだけでも売上は落ちて行く。
		スナック(経営者)	・総選挙の時期は悪くなるのが通例だが、先行きの不安感が払しょくされないと、落ち込みに歯止めが掛けられない。
		観光型ホテル(経営者)	・新型インフルエンザの流行により、レジャー志向の低下が予想される。
		都市型ホテル(スタッフ)	・大手企業が動かないところに来て、県や市が財政悪化している状況にあり、ますます混迷を深めるばかりである。対応策といっても自己資本が少ないために、修繕等、現在、非常に苦慮している。
		旅行代理店(支店長)	・新型インフルエンザが流行しており、9月以降旅行業界では1番の繁忙期になるが、新型インフルエンザの影響が今後非常に心配になる。春のような旅行の中止、延期等が起こると思われるので、今後新しい客の獲得が非常に大きな点になる。一番の悪い条件が起こりつつある。
		美容室(経営者)	・地方都市では業種によって良い業種があるとも思えないほど冷え切っている。昨年より店を閉めるのを多く見かける。跡継ぎがないこともあるが、町を歩く人がいない。新規に開業した美容業者もいたが、最初のうちは客も入っていたようだが、今はそのようには見えない。一般的にお金を使える余裕がない。
企業 動向 関連	良くなる	輸送用機械器具製造業 (総務担当)	・北米への自動車輸出が好調になって来て、9、10月と増産体制に入っている。9、10、11月と前年比90%強まで戻るといいう状況になって来ている。
		その他製造業〔環境機器〕 (経営者)	・環境機器 フロン回収機は一巡しているが スプレー缶、ガス缶、ライター等の処理装置が普及期に入ってきた様子である。当社としてはものづくり中小企業製品開発等支援補助金の採択が決まり、その他の開発品の仕事も重なっていく。
	やや良くなる	プラスチック製品製造業 (経営者)	・自動車の生産台数、販売台数も徐々に回復してきたようなので、これからの受注高の伸びに期待している。
		一般機械器具製造業 (経営者)	・在庫調整のためしばらく動きが止まっていた品物も、夏休みが明けて徐々にではあるが動き出始めており、回復のスピードは緩やかではあるが、仕事が徐々に戻ってきている。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・当社のメイン客先の使用製品のフルモデルチェンジが来月下旬より始まるのを期待して、受注増につながることを期待している。
		輸送用機械器具製造業 (経営者)	・大変良くはならないが、今の最悪な状況よりも今後はいくらか良くなる。
		その他製造業〔宝石・貴金属〕 (経営者)	・市場でのジュエリーの販売は引き続き厳しいが、卸、小売りの在庫調整はほぼ限界まで来たので、秋口用の仕入に期待したい。
	変わらない	窯業・土石製品製造業 (経営者)	・年末商品受注も例年ならば既に動きがあるが、今年はまだ動きが無い。
		金属製品製造業(経営者)	・だんだん取引先の在庫量も少なくなってきているので、これ以上悪い方向にはならない。
		一般機械器具製造業 (経理担当)	・生産量が増えないので、何も変わらない。
		電気機械器具製造業 (経営者)	・民間の設備投資が全くないので、当社では継続的な設備の受注が少し厳しい。今年度はかなり低空飛行のままである。
		輸送業(営業担当)	・季節変わりになり、冬物家電やその他の紹介出荷等があるので、例年並みの荷動きはある。しかしながら、荷主より、コストカット、運賃値下げ交渉や、燃料などの上昇も多少あり、仕事量は同じでも利益は減少している。しばらくは我慢が続くそうである。
		金融業(総務担当)	・通常予定される物品等の経費支出増加については、ひと段落した感じはあるが、新型インフルエンザ流行への備えに関する経費が掛かりそうである。
		新聞販売店〔広告〕 (総務担当)	・新聞の定例求人広告特集は実際の求人より広告あるいは記事の方が多く、正社員の求人はゼロに近い。また、求人チラシはほとんど見られなくなっている。各地で開かれる予定の花火大会が、寄付が集まらない事情で今年は中止となるところがある。
		社会保険労務士	・多少売上は増加してきてはいるが残業したりするほどではなく、従業員の収入が増えていない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	その他サービス業〔情報サービス〕（経営者）	・厳しい状況は、今後も続く。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・仕事の受注量がかなり少なくなっており、今後についても、先行きが見えない。
		化学工業（経営者）	・在庫品を売却することにしたが、客先の景気も冷え切っているため、売れるかどうか不明である。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・秋以降の受注見通しが非常に悪い。近くでは相変わらず人員整理、倒産も報じられている。
	悪くなる	金融業（経営企画担当）	・消費不振と企業活動の停滞から来る雇用環境の悪化という負の連鎖、デフレに陥る可能性がある。
		食料品製造業（製造担当）	・天候不順で、農作物が順調に育っておらず、また7、8月の大雨の影響で、九州の大豆などが駄目になったということから、このまま行くと原料高になり、デフレスパイラルとダブルで体力を奪われる。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・仕事量も減っていく一方である。
		電気機械器具製造業（経営者）	・いまだ先が全く読めない。単発受注でつないで、延命を図っている。
		建設業（総務担当）	・公共工事主体で土木、舗装工事を行っている。相変わらず安値受注のため、受注高は前年並みに確保出来たが、各工事で利益を確保するのは厳しく、まだまだ一般経費を確保するまでには至っていない。金融機関からの追加融資を受けられない。
		広告代理店（営業担当）	・売上の減少に、底打ち感がない。
雇用関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	人材派遣会社（営業担当）	・製造業では、在庫調整が一段落し、次のステップとなる。地域の主力企業が回復しないと、小売業の売上もアップせず、景気循環の流れがスムーズにいかない。
		人材派遣会社（管理担当）	・短期の新規契約が増加している。特に自動車関連が良くなっている。
		職業安定所（職員）	・一部の企業からは一時帰休等の雇用調整等が一段落し、通常稼働となる話を聞くが、現状体制のまま様子を見ており、求人募集までは至らない。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・大手の会社が仕事の量が少なく、ほとんど頼まれない。
		人材派遣会社（社員）	・状況的に当社の取引先もなかなか予算を取ってもらえない状況で、例えば設備関係の修繕もその都度予算を取ってもらえたのだが、法的にどうしても必要なもの、運営上どうしても欠かせない修繕のみに絞られてきており、その予算も厳しくなってきた。
		求人情報誌製作会社（経営者）	・各企業は現在の人員で事業を進めていくなれば良い方で、人件費削減に力を入れているところが多くなってきている。
		職業安定所（職員）	・新規求人数及び有効求人数が20か月連続して前年を下回っている。製造業からの求人も相変わらず減少している。
		職業安定所（職員）	・求職者の動向には若干の落ち着きが見られるものの、求人の減少傾向についてはしばらく変化はない。
		学校〔専門学校〕（副校長）	・昨年9月から求人数が減り始め、1年たつ現在も好転の兆しがまったく見られない。高校生の就職が9月から解禁になるが、危機感は例年に増して強い。
やや悪くなる	-	-	
悪くなる	-	-	

#### 4. 南関東（地域別調査機関：（株）日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	ゴルフ練習場（従業員）	・これから9、10月とゴルフシーズンに向かうこともあり、来客数、売上共に良くなっていく。
	やや良くなる	商店街（代表者）	・当店なりにいるとイベントを考えて企画をしている。その結果が良い方向に出る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔文具〕 (販売企画担当)	・今まで不況で外商の大型案件、スチール家具やOA機器等といった設備投資の部分がばったり無くなっていたが、やっといろいろな所でめどが立ってきている。まだまだ直接生産増にかかわる設備投資以外のものは難しいということはあるが、新規で建屋ができる等でそれらに付随するスチール家具等が出始めたので、少し良くなってくる。
		百貨店(総務担当)	・景気の底打ち感を受け、来客数はやや戻りつつある。衣料品を中心とした購入単価、購買率等まだまだ厳しい状況は続くものの、若干持ち直す。
		衣料品専門店(営業担当)	・秋物の動きが良くなってくる。できるだけ残暑が無く、涼風が吹く日が2、3日続けば購買力も上がってくるが、必要な物だけしか買わない客の意識自体は変わらない。
		家電量販店(店長)	・エコポイント制度での買換え促進は、年末まで継続していく見込みである。
		家電量販店(統括)	・年末にかけては、けん引役としてテレビに期待が持てる。新型インフルエンザによる空気清浄機等の対策商品の特需もある。
		家電量販店(副店長)	・年末商戦が始まり、客の財布のひもも若干緩くなる。また、政府のエコポイント制度による買換えも促進される。
		乗用車販売店(販売担当)	・先月同様、エコカー減税や補助金の対策などにより、引き続き受注も活発に推移している。販売においては、来月もこの調子が続く。
		乗用車販売店(総務担当)	・外向きは景気回復の顔をしていますが、社内では経費削減を余儀なくされ、内情は渋い顔になってしまい、もどかしさが残る。期限付きの減税措置のため、先行き不安ではあるが、引き続き政府の取った景気回復策に便乗できる。
		その他小売〔雑貨卸〕 (経営者)	・政府による景気刺激策が徐々に効果を見せている。
		その他小売〔ゲーム〕 (統括)	・来月開かれる展示会で、各社から新商品が発表される。これらは年末に発売されるので、3か月後には市場が活況を呈するのは間違いない。
		都市型ホテル(スタッフ)	・婚礼の参加ゲストは減っているが単価が上がり、1組当たりの総額が上がっている。
		旅行代理店(営業担当)	・新しい商品の造成が進んでいる。
		タクシー(団体役員)	・総選挙が終われば少しは客の動きも活発になると思うので、景気はやや良くなる。
		通信会社(営業担当)	・地上デジタル放送対策をする客が増えている。
		その他レジャー施設 〔ホール〕(支配人)	・週末、郊外レストランに行く待ち時間が長くなって来ている。また、当施設のビル管理事務所の話では、1階にある飲食店は勝ち組、負け組がはっきりしているようだが、着実に来場者が増えているとのことである。多少は良くなりつつある。
		その他レジャー施設 (経営企画担当)	・スポーツ関連の特定の商品、サービスが発売される時期になると、客からの引き合いが一気に増える。
		設計事務所(所長)	・1~2年前からの計画物件が決まらないうと、実感としては景気回復と思えないが、このところ少し計画が出てきたことを考えると、良くなることを期待している。
		設計事務所(職員)	・医療施設耐震化臨時特例交付金のおかげで、ちゅうちょしていた病院の建替え計画が進捗する状況が今後も続く。
		住宅販売会社(従業員)	・都心の影響が周辺に及んで、やや良くなる。
	変わらない	商店街(代表者)	・今年のこれまでを見ると、このままだったらと上がるでもなく急降下するでもなく行く。イベントを仕込んでいるので、そのレスポンスで、感覚ではなく実感としてどうなのか、本当のところ分かる。
		商店街(代表者)	・今年の夏はこれまでと違い、非常に物が売れなくなっている。客の新しい物を買おうという意識も少なく、今年は新しいものを買わずに我慢しようという気持ち強いので、変わらない。
		一般小売店〔衣料・雑貨〕(経営者)	・夏物の衣料品の売行きが厳しい環境下で、末端の小売業が息切れしないか心配している。秋物商戦の今後の厳しさが予想される。
		一般小売店〔医薬品〕 (経営者)	・今月は営業日数も少なくあまり良くなかったが、恐らく2、3か月後もあまり期待が持てないので、変わらない。
		一般小売店〔印章〕 (経営者)	・報道では底を打った等と言っているが、我々末端の小売業者にはまだまだ遠い話である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		百貨店（売場主任）	・景気が上向き要因が相変わらず見つからないこの状況下において、百貨店の衣料品を始めとする各カテゴリーの苦戦は、秋以降も続く。
		百貨店（売場主任）	・今月中旬ごろから衣料品の秋物プロパーの動きはあるが、昨年に比べ20%の単価ダウンの動きから見ると、当面は低価格志向が続く。
		百貨店（総務担当）	・当店及び近隣各店の売上を見ても、主力商品である衣料品の売上が前年の80%台と、回復の兆しが見えない。
		百貨店（総務担当）	・経済のファンダメンタルズはあと1年くらいしないと決して好転はしないと見ている。それが個人の消費につながって購買力の向上につながるのはいま少し先で、まだ実際の商況には反映しない。
		百貨店（企画担当）	・どのような政権が発足しどのような政策を打ち出すのか、タイムラグも発生し、不透明感が広がる。この間、石油製品の価格も上げ基調になっているなど、消費者にとって消費の抑制要因も発生している。
		百貨店（広報担当）	・9月は8月水準の推移を予想している。曜日と件数は悪いが、先行企画、オリジナル企画を充実させ、消費喚起を図る。9月の大型連休には地方からの上京顧客向けの来店促進も強化している。10月以降、前年のハードルが低くなり前年比が上向いてくれば、心理的にも上向きが期待される。
		百貨店（広報担当）	・消費者の価格に対する圧力が相変わらず強く、値ごろ価格でなければ買わない状況が続いている。数か月前と比較して多少景気の持ち直し傾向は感じられるが、全体的に価格の下落スピードに、購買点数増が追い付いていない。
		百貨店（営業担当）	・経済対策が当分実施されそうもないので変わらない。
		百貨店（営業担当）	・買上数が前年の7～8割に止まっている。特に婦人服、服飾雑貨品がその傾向が強い。まだまだ個人消費が低迷を続ける。
		百貨店（販売促進担当）	・今後も施策を打ち続ける。同時に個人外商部隊の取組改善も進むものと思われ、顧客離れに歯止めが掛かりつつある。
		百貨店（販売促進担当）	・景気が良くなる要素が見当たらない。景気は下げ止まるか否かは分からない。総選挙の結果次第で新たな要因が生まれることを期待したい。
		百貨店（業務担当）	・総選挙の結果がどのようになるのか。また、この長雨、天候不順等での各食材の値上がり等がどの程度影響してくるのか。特に現在、百貨店においては食品だけがある程度順調な推移を保っているのだが、その唯一の食品がそこでどう動くのかによって相当変わってくる。そういう面から言うところ、決して明るい材料が今の段階で見えるとは言い難いので、変わらない。
		百貨店（店長）	・8月の衣料品販売はやや回復傾向が見られたが、夏物シーズン商戦の厳しさが根深い状況にあることをあらためて痛感している。9月以降の秋冬商戦においても、消費者、ヤング層の衣料品購入については厳しさが継続する。
		百貨店（副店長）	・家電は好調、食料品、外食は不調で変わらない。
		百貨店（営業企画担当）	・総選挙後の影響も考えられるが、仮に影響が出てくるとしても当分先になるため、変わらない。
		スーパー（店長）	・現段階では変わらないと見ている。生活防衛意識が高まっているなかでは、総選挙で政権が変わったとしても、劇的に景気が変わることはない。
		スーパー（店長）	・総選挙の結果によって景気対策等の効果がどの程度出てくるのか注目したいところであるが、基本的には将来の見通しが立たない限り、景気は好転してこない。
		スーパー（統括）	・来客数は3か月前や前年同期と比べてもほぼ変わらないが、客の買物点数が減っている。今までは1か所のスーパーなどで買物を済ましていたが、より安い先へ買物に走り、買い回りをしているような状況である。将来を見据えた生活防衛意識がますます強くなるので、消費の停滞は引き続き続く。
		スーパー（仕入担当）	・大手チェーンのプライベートブランドが価格のベンチマークになってしまい、価格を下げざるを得ない状況が続いている。消費者が価格を比較して買物をしている状況は今後も変わらない。
		コンビニ（エリア担当）	・本部としてもお得感ある低単価の品ぞろえを強化しており、客の囲い込みと買上点数アップに力を入れるが、客単価の下落は必至である。また、競争店出店の影響が出てくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		衣料品専門店（経営者）	・衣料品は気温に大変敏感である。涼しいと秋物は動くが、9月が高め、暑めという予報なので、あまり期待できない。
		家電量販店（経営者）	・引き続きエコポイント対象商品を中心に売上の増加が期待できる。10月発売の新しいOSによるパソコン関連も、今年末は期待できる。
		乗用車販売店（経営者）	・整備のほうは順調だが、販売は前年と同様、あまり芳しくなく、3割減となっている。
		乗用車販売店（販売担当）	・一時期トラックの販売量が増えたのは、あくまでも環境助成金の影響である。しかし、環境助成金が出るからといって、現状やはり購入しないユーザーもいる。現実、輸送量が減っている、燃料が上がっているということで、人のリストラをしている。リストラされると当然、景気が余計に落ち込み、購買意欲もわかないので、今後この悪い景況感のまま続く。当トラック業界についても今年度の人員削減という方針が明確にできつつあるので、ますます景気については良くない。トラック環境は良くないので、景気は悪いほうで変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・補助金の効果はあると思うが、秋くらいまでに財源が枯渇するという噂が出ており、その状態も把握できていない。そのため、また買い控えが始まっているという状態から、変わらない。
		乗用車販売店（渉外担当）	・好調の新型ハイブリッド車も納期に時間が掛かっており、需要止まりが懸念される。また、依然雇用、賃金減、燃料価格等、不安定材料は蓄積されている。総選挙結果での政局変化の不透明性もあり、景気状況は当面変化しない。
		住関連専門店（統括）	・販売量の動きが相変わらず悪い状態のまま継続していく。
		その他専門店 [ドラッグストア]（経営者）	・インフルエンザの流行のピークが10月と言われているので、それまでは関連品の需要がかなり見込めると思うが、その間に他部門の建て直しが必要である。
		その他専門店 [服飾雑貨]（統括）	・経済トレンドも改善せず、明るい兆しが全く見えない。商品動向も低単価、バーゲン指向にあり、プロパー価格での販売について限界を感じる。
		高級レストラン（支配人）	・2～3か月先の会合の受注状況は改善されていない。新型インフルエンザの流行や異常気象による食材の値上がり等、好材料が見当たらない。
		一般レストラン（経営者）	・3か月後は今と変わらず、客や会社等の不景気の影響を受けてくる。景気が良くなったとはいえ、我々飲食店のところまで戻ってくるのは相当掛かるので、まだ深刻な状態が続く。
		一般レストラン（経営者）	・景気は底を打ったといわれているが、新型インフルエンザなど、客足をストップさせる要因が次々現れ、予断を許さない状態である。
		都市型ホテル（スタッフ）	・どんな政権になるのかをしっかりと見極めてから消費者も動き出すので、現在の悪い状況がしばらく続く。
		旅行代理店（従業員）	・先の問い合わせが少ないため、今後の見通しは言わずもがなである。せっかく受注している団体旅行も、新型インフルエンザの影響で自粛や延期が相次いでいる。
		タクシー（団体役員）	・景気に左右されやすい業界なので、景気の回復次第だと思うが、利用客との会話などからは景気回復の話は無く、今後もこの状況が続く。
		通信会社（経営者）	・景気の先行きに対しての不安感は薄れつつあるものの、一度儉約に慣れた意識を変更するまでに至らない。
		通信会社（営業推進担当）	・総選挙の結果如何で変わる要素はあるものの、年内はあまり大きな変化は無い。
		通信会社（企画担当）	・テレビの地上デジタル化の動きは、あまり景気に連動しない。
		通信会社（営業担当）	・地上デジタル放送対策として大手他社も力を入れてきており、しばらく一進一退が続く。
		通信会社（営業担当）	・2009年下半期もアナログ加入者のデジタル化に伴う解約が予想されており、その織込みによって一本調子の増加は見込めず、現状ペースで推移する。
		通信会社（営業担当）	・現在の状況が急速に好転するとは考えにくい。
		通信会社（総務担当）	・政権交代が決まったが、当面は様子見状態が続くため、変わらない。
		観光名所（職員）	・今後9月に入ると学校等が始まり、来客数が若干減る。秋山となれば伸びるので、このまま維持できれば総じて変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		パチンコ店（経営者）	・株価等は最近結構上がっており、景気は戻ってきているのかという感じは受けるが、当地域ではあまりそういう生活の実感がない。もっと良くなって欲しいという希望はあるが、冷静に考えて今とさほど変わらない。
		その他レジャー施設 〔スポーツ施設〕（支配人）	・スポーツ会員の予約数や会場使用の問い合わせ数等、特に大きな変動がない。
		その他レジャー施設 〔アミューズメント〕（店長）	・近隣に新たな商業施設が開業する予定である。今夏の客動向を見ると、これまで以上に娯楽に使うお金が分散する。
		その他サービス〔福祉 輸送〕（経営者）	・福祉関連の状況については、政権与党がどのような予算処置を講じていくかで先行きの見込みが大きく変わっていくので、どちらとも言えない。
		住宅販売会社（従業員）	・景気が変わりそうな要素がなかなか見つからないが、最近建売業者が土地の仕入れを積極的に行っているようである。数か月後には販売物件となるので期待しているが、販売件数が増えても販売単価が下がっているため、結局、景気自体は変わらない。
		住宅販売会社（従業員）	・これから秋商戦に入るが、現在の受注残が少ないため売上は期待できない。契約については、来年3月の入居希望客をどれだけ獲得できるかにかかっている。現在のユーザーの状況だと高額物件の購入意思決定にはまだ慎重で時間が掛かる。
		その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・建築業界の景気は低迷したままで、今後2～3か月のうちに何か大きく変わるようなことがあるとは思えない。サッシメーカー等は工場の稼働率を下げながら、量が減っているなか、対応しているため、利益確保がしにくい状況になっている。
やや悪くなる		一般小売店〔家電〕（経営者）	・エコポイント制度でテレビの買換えが多少あるとは思いますが、全体的に単価が下がっているためどうしても売上は高くない。その他に、中小企業、会社での設備投資の話等も上がったのだが、景気が悪いので少し待てという話が出てきている。
		一般小売店〔和菓子〕（経営者）	・新型インフルエンザの流行に伴い、消費が落ち込む。また、総選挙の結果がまだ不透明な部分が多い。9月は敬老の日に特別な大口の注文が入ったので多少数字が見込めるが、その後がやはり厳しい。
		一般小売店〔酒類〕（経営者）	・大型店の連敗が続く限り、景況は良くならない。
		一般小売店〔茶〕（営業担当）	・お茶を飲む際に急須を必要としない時代へと変化してきている。セルフでお茶を持参、又は給茶機という機器等を使用せずにお金をかけずに、簡単に飲むペットボトルやティーバッグが利用されてきている。まだまだ景気不安は続きそうである。
		百貨店（営業担当）	・良くなることは現状ではありえない状況である。商品の作り手に資金が無く、ベーシックなものしか作れず、大きく売上が伸びずは厳しい。逆に落とす、悪くなる可能性が高い。
		百貨店（営業担当）	・商品の低価格化が進み、前年の実績をとらえることが非常に厳しい状況である。前年10月前後より急激に悪化したのが、この状況をかんがみると1年を経過しても復調する兆しは見えない。消費マインドの落ち込み及び単価の下落の二重苦により更に厳しい状況になる。
		百貨店（販売促進担当）	・直近で子供服領域がやや低迷し、新型インフルエンザの影響が早々に出ている。都内店だけでなく郊外店舗でも、冬に向けてミセス層が防衛体制になる。
		百貨店（販売管理担当）	・株価が持ち直しつつあるとはいえ、宝飾品などの特別販売会では購買単価、購買点数がますます落ちており、不要不急の高額品は厳しさが増している。3か月後の年末需要が始まる頃は高額品の売上減に加え、食料品、衣料品、雑貨等でも、ボーナスカットを見越した買い控えがこの夏以上に進む。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（経営者）	・客の買い方がやはり非常に慎重になっている。できれば余計な物は買いたくないというようなところがあるので、それをいかに買ってもらうか、その競争の繰り返しである。そういう点でいかに客に買う気を起こさせて買ってもらうかというのが、なかなかこれから難しくなってくる。特にボーナスがあまり出ていない会社も結構あるので、それと先行きの不透明感で、大分慎重な買い方になっているのが、これからだんだんひどくなる。
		スーパー（仕入担当）	・冷夏の影響、特に秋に収穫を迎える農作物への影響と、新学期が始まり、新型インフルエンザが爆発的に流行してしまう恐れがある。
		コンビニ（経営者）	・いろいろな周りの状況を見て、これといって良くなりそうな材料が見当たらない。
		コンビニ（商品開発担当）	・薄利多売な商品群においての消費者の購買意欲は、依然引き締め感がある。
		衣料品専門店（経営者）	・政権交代でしばらく様子を見る状況であることと、新型インフルエンザの流行予想で外出を控える人が多くなるように、外出着、羽織り物などの動きが悪くなる。
		衣料品専門店（店長）	・各家庭の収入が減少しているため、余分な消費に回すゆとりは無いと感じる客が、必要な物のみの購入しかしていない。
		乗用車販売店（経営者）	・自動車販売は国の補助金の終了と共に終息に向かう。
		乗用車販売店（店長）	・減税及び補助金の追い風で順調に推移していたが、補助金残高等が非常に不明確となり、政権交代により、補正予算の追加も非常に心配である。買い控えから逆風となり、下期経済は常に厳しい状況になる。
		その他専門店〔雑貨〕（従業員）	・売上を望めるようなイベントが特に控えていない。
		一般レストラン（スタッフ）	・今まで立地の良い店舗は売上が良かったが、それが少し落ちてきている。町中では服など今までに無く安くなっているが、誰も何も買っていないので、当店はまだましな方である。会社勤めの人の給料が良くならないことには、結局使えるお金がないので、先行きも悪い。
		都市型ホテル（スタッフ）	・先の入込数が、宴会は前年比で1割弱少なく、宿泊は2割程度少ない。レストランの入込はこれからであるが、宴会場は12月の忘年会の入込数は前年同期比でほぼ同数である。しかし、これから料金交渉になるので、売上の伸びはあまり期待できない。
		旅行代理店（従業員）	・これから再度、新型インフルエンザに影響される。
		旅行代理店（従業員）	・新型インフルエンザの本格流行、燃油サーチャージの再設定や引上げなどマイナス要因ばかりが待っており、旅行需要に大きく影響することは避けられない。
		競馬場（職員）	・旧盆の時期を過ぎたところで総売上が減少している。これは例年のことではあるが、今年は顕著に表れている。来場者数は前年並みであり、売上の減少は客の購買額の低下が第一の要因と考えられる。
		その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・生徒数が年々減る一方である。
		設計事務所（所長）	・いずれにせよこれから更に悪くなっていく状況は変わらない。土地が動いていないこと、受注量が大幅に減ったことなどから、一段と厳しくなる。
	悪くなる	一般小売店〔茶〕（経営者）	・マンションやアパートができて商店街が歯抜け状態になるので、非常に厳しい状況である。
		一般小売店〔米穀〕（経営者）	・もう1回年末ごろ底が割れそうである。
		コンビニ（経営者）	・客数ばかりでなく単価もものすごく落ちてきているので、悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・総選挙の結果に左右されると思うが、当面の間、経済政策まで手が回らない状況が続くため、景気は悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・各商品の単価が下がり、利益は減少、同業他社との競争は激しさを増し、当分改善の兆しが見えない。
		衣料品専門店（経営者）	・残暑等の天候に左右され、秋物商戦が不安である。大きなキーアイテムも無く、客に流される状況が予想される。
		都市型ホテル（支配人）	・先々の客の動きは更に鈍く、新型インフルエンザの影響も大きい。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		タクシー運転手	・新型インフルエンザの感染が広がりがつある。外出する客が減少し、乗務員は感染に注意し、健康管理が必要とされる。
		タクシー運転手	・タクシー事業適正化・活性化特別措置法がようやく成立し、その後通達がそろった。まだまだこれからどうするか、3～4か月先の話になるが、これに期待するという以外にない。
		その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・企業と密接型の職種であり、ここ1年以上企業が当地域で減っている傾向にあり、まだまだそれが続くため、景気は悪くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・各業界で在庫が減ってきているという話はよく聞く。しかし、いずれにしても資金不足を起こしており、銀行の融資が厳しく、スムーズな資金調達が出来ずに、不況に陥っている。今回の不況は金融危機が原因なので、中小企業が今までのようにスムーズに資金調達をできるような対策が必要である。
企業動向 関連	良くなる やや良くなる	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・主に外回りの客である法人客と、店に来る個人客がいるが、店頭にくる客、少し良い物を注文する客が増えてきている。
		金属製品製造業（経営者）	・在庫が切れ、少しずつではあるが、生産が始まるため、やや良くなる。
		一般機械器具製造業（経営者）	・ここ何か月か止まっていたようなものがいくらか動き出す感じがしている。昨年大量に出ていたようなものはまだ半分以下の受注しか来ていないが、9～10月にかけてはいくらか増える見込みである。
		精密機械器具製造業（経営者）	・当社も一時期の底は脱した感があるが、まだ油断はできない。金属切削加工関係はコストダウン要求が非常に厳しく、大手は法に触れるぎりぎりのところでの要求である。
		建設業（営業担当）	・取引先や企業が不動産活用における売買に動き出している。建設業界も不動産活用の話が多くなっていくと、比例して受注高が上がっていく。
		その他非製造業〔商社〕（営業担当）	・客先の製造計画が上向きである。
	変わらない	食料品製造業（経営者）	・雇用も今が底だが簡単には落ち着かないと思うので、変わらないとしたが、下がることはない。
		出版・印刷・同関連産業（経営者）	・最近入札に参加し始めたが、我々では全く考えられないような、誰が見ても赤字になるような値段で落札している業者が増えてきている。これから先どうなっていくのか不安である。
		出版・印刷・同関連産業（所長）	・厳しい状況はまだ変わらず、現状維持で精一杯である。総選挙の結果で多少良くなると期待したいところではあるが、急激な回復は無いただろうし、年内中の景気回復は期待できず、来年度以降まではこの状態が続く。
		化学工業（従業員）	・出荷量は横ばいの状態であり、受注量も増えてこない。これからもこの状況が続くそうである。
		金属製品製造業（経営者）	・8月の売上は前年比8割減と過去最低であり、9月の仕事量の見込みも無い。ますます悪くなっていくようである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・相変わらず受注が少なく、仕事の注文がほとんどないような状態である。何とか新しいところの仕事を取るよう動いている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・我々の商売はすべての産業に関係しているので全体の景気が良くなると当社も良くなる。今、新商品の開発を急いでいるので、早く完成させて将来につなげたい。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・トラック業界もメーカーに作る意欲が無いようで、3勤4休の状態は解除されたものの、結局、材料が動かなければ休みになるので大して変わらない。視界から仕事が消えたままの状態が続いており、諦めるしかない状況である。
		その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・今後も引き続き良くなるかという疑問である。定額給付金の給付のインパクト等が完全に沈静化し、それに続く好材料が無い。
		その他製造業〔靴〕（デザイン担当）	・今の良くない状況は変わる感じがしない。悪くなる状況も感じられず、現状維持、様子見の状況がしばらく続きそうである。
		建設業（経理担当）	・大型案件の受注は望めないの、会社の得意分野の受注を目指している。しかし小型案件ばかりなので、受注量は増加しても売上の減少は避けられない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信業（広報担当）	・中小企業にまで回復の恩恵が及び難い。
		通信業（総務担当）	・総選挙後の景気浮揚策にもよるのだろうが、ここ数か月は景気停滞が続く。
		金融業（従業員）	・前月比110%となった今月の取引先の売上は、大幅増ではなくほぼ横ばいのため、景気が良くなるとはまだ考えにくい。
		金融業（渉外・預金担当）	・依然として中国から値段の安い輸入品が入ってきており、中国シフトが進んでいる。
		金融業（審査担当）	・製造業については、徐々に受注が回復傾向にあるものの、価格は抑えられる一方で利幅は減少しており、資金繰りは依然として厳しい状態が続く。
		金融業（支店長）	・自動車メーカーの増産は、近い将来下請部品メーカーにも必ず受注増加という好影響を及ぼすはずであるが、2～3か月先は変わらないと考えられる。
		不動産業（総務担当）	・空室が埋まらない上に、入居の希望があってもかなり価格を下げざるを得ない。空室にしておくよりはよい、と苦慮している。
		広告代理店（従業員）	・売上は底を打ったと思うが、今後、浮上するかどうかは分からない。いわゆるL字型になると見ている。
		経営コンサルタント	・遊休不動産を長期にわたって賃借し、賃貸住宅を建設し、貸すという事業で、業績を伸ばしてきたある中小企業はこのところ事業の種となる不動産が出てこないと言っている。遊休不動産はいたるところにあるが、保有者の心理が変わって来て、30年という長期にわたる事業への理解を求めることに難しさが出てきているようである。不況下で時代の先を見つめることそのものに不安感がある。こうした心理状況はここしばらく続く。
		経営コンサルタント	・まだまだ悪いまま推移する。
		社会保険労務士	・良くなるという要因が見当たらない。
		その他サービス業〔警備〕（経営者）	・ここしばらくはそう変わらず推移していく。
		その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・顧客先の工場稼働率改善等の兆しがまだ見えて来ず、この低迷状態はしばらく続く。
		その他サービス業〔映像制作〕（経営者）	・総選挙の結果にもよるが、変化があったとしても広告費等に影響するのは時間が掛かるので、2～3か月後の景気がそんなに上昇しているとは思えない。
		その他サービス業〔情報サービス〕（従業員）	・総選挙次第という面もあるが、回復傾向にある景気はこのまま若干の上昇傾向を続けると思われる。
やや悪くなる		出版・印刷・同関連産業（総務担当）	・機械の稼働率は100%ではあるものの、発注自体が非常に減っており、1件の単価を安くしても仕事が取れなくなっている。
		電気機械器具製造業（経営者）	・総選挙が終わって実際に経済政策の効果が出るまでにはまだ時間が掛かる。現状から良くなる様子は何も見えてこない。リストラを避けて継続していく道を選んでいる。
		その他製造業〔鞆〕（経営者）	・よそにない特殊な内容の商品で維持しているが、ここへきてさすがに得意先も苦戦している様子なので、先行きはやや悪くなる。
		輸送業（経営者）	・景気は底入れ間近だとか底入れと政府から発表されているが、零細、中小企業にはそのような感じは全く無く、不況のど真ん中において、景気は底割れするのではないかという危惧を抱いている。
		金融業（支店長）	・取引先の受注状況、売上等がまだ戻ってきていない。また、取引先の延滞、個人客の自己破産も増えている。企業の売上増加が見込めない、個人の収入が増えないことから、先行きはやや悪くなっていく。
		不動産業（経営者）	・古い物件が特に決まらず、売買の動きも鈍い。駐車場も空きが増えている。
悪くなる		プラスチック製品製造業（経営者）	・取引先の回復の見通しがつかず、途方にくれている。新規開拓も厳しい情勢で、資金繰りも今後ますます厳しさが増すばかりである。
		金属製品製造業（経営者）	・下請として採算の取れる単価で注文が取れなければ会社の経営は成り立たない。
		輸送業（経営者）	・4月以降今月まで、売上がすべて前年同月を下回っており、2～3か月先も同様と思われる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
		輸送業（所長）	・現在、主要荷主から先方の経営状況が芳しくないので値下げ要請を受けている。既に数回値下げに応じているが、今回は更に厳しい数字である。主要荷主なので受けざるを得ないが、赤字対応になるかもしれない。	
		輸送業（総務担当）	・公共事業関連の出荷を期待しているが、出荷予定が無く、低調な状況が当分続く。	
雇用 関連	良くなる やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・製造業からの求人数が増加してきたので、やや良くなる。	
		人材派遣会社（業務担当）	・当面は、少し良くなったり底になったりと細かな上下があると思うが、年末に向けて物量が増えてくるので、大きくは変わらないものの、現状よりは確実に良くなる。	
		求人情報誌製作会社（営業担当）	・今期に比べ、同時期での来期の取引確定額が少し改善している。	
		求人情報誌製作会社（編集担当）	・例年8月は求人の動きが鈍く、後半から秋に向けての業務拡張のための補充やイベント、セールなどの販売員募集など短期ものが入るが、今年はそれすらない状況である。ただ、9月の大型連休をはじめとする秋のシーズンに集客を見越した展開を予定しているようで、これまで動きがなかったレジャー関連などのサービス業から求人の問い合わせが来ている。	
		職業安定所（職員）	・雇用調整に関する助成金の申請事業主の多くは中小零細な製造業であり、今後在庫がはけることによって、幾分かの受注が期待できる。	
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・総選挙が終わり、いろいろな政策の変化により景気が良くなってくれば、ということ以外に期待するようなことがないという経営者がほとんどである。	
		人材派遣会社（営業担当）	・派遣就業先の景気回復が命題である。自然減での人員削減は引き続き行われる見通しであり、人材派遣労働者の就労人数も全国的に減少していると思われる。	
		人材派遣会社（支店長）	・相変わらず、若年者を含め求職者が多い。	
		求人情報誌製作会社（編集者）	・中途採用を含め、正社員採用を手控えている企業が多い。一部業界においては積極的な動きもあるがパイが小さく、全体として来年3月まではこの傾向が続く。	
		職業安定所（所長）	・新規求人、新規求職の動きに変化が見られない。	
		職業安定所（職員）	・完全失業率が5.4%と発表され、今後6%前後まで上昇が予想される。有効求人倍率も0.34倍と史上最低を記録し、更に悪化する見込みである。雇用調整助成金の申請件数も増加しており、企業活動の回復が見えないため、正規労働者の人員整理の増加や、体力のない企業の倒産の増加が見込まれる。	
		職業安定所（職員）	・求人数は増える状況になく、求職者数は今後も変わらないため、就職困難な状況に変わりはない。	
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金の申請が引き続き多く、今のところ求人が増えてくる傾向は全くない。	
		民間職業紹介機関（経営者）	・まだ生産は従来の7～8割に到達するかしないかという状況で、すぐ市場が以前の状態に戻るということは無さそうである。人員の置き換えで良い人がいればキーポジションにということはあるが、人を増やすつもりは全くない。非常に慎重な姿勢の中、もうしばらくは今のあまり良くない状況が続く。	
		民間職業紹介機関（経営者）	・相変わらず採用者数が例年を下回る状態が続いている。	
		民間職業紹介機関（職員）	・景気は底を打った感はあるものの、完全失業率は過去最低を記録しており、雇用面においてはまだまだ時間が掛かりそうである。	
		学校〔短期大学〕（就職担当）	・夏季期間中の8月になって過去届いていない企業から求人が3件来ている。また、未内定学生の就職意識が薄れてきているので心配である。	
		学校〔専修学校〕（就職担当）	・次年度の採用計画については、おおむね今年同様か若干の減少との回答が多数を占めている。	
		やや悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・上期を終える9月に業績見通しが厳しい取引先との取引終了数が増えそうである。受注が回復する材料も無いので厳しい。
			求人情報誌製作会社（営業担当）	・サービス業を中心に、売上低迷による既存従業員員の余剰が増えており、新規採用を考える企業よりも人員整理を考えている企業のほうが圧倒的に多い。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・雇用対策法に基づく再就職援助計画が提出された企業においては、9月末日で離職を予定している計画が多数あり、雇用調整助成金、中小企業緊急雇用安定助成金の申請数も増加傾向にある。このことから10月以降に景気回復による求人数の増加がなければ悪くなる。
		職業安定所（職員）	・価格破壊、物価の低下が進行していることから、企業収益の伸び悩みが給与分配に悪循環となる。
	悪くなる	人材派遣会社（営業担当）	・総選挙も終わり、短期、単発的な求人にもあまり期待できなくなった。年末のボーナス商戦に向けての短期的な求人についても、昨年あまり増えなかったことを考えると、今年もあまり期待できそうにない。
		求人情報誌製作会社（広報担当）	・そもそも当社がつぶれそうな状況である。前年比の売上の落ち方が尋常ではなく、冬のボーナスもゼロの見通しである。これでは生活が立ち行かない。
		職業安定所（職員）	・事業所の雇用調整が続いている。助成金の申請が非常に多くなっている。悪い状況が続いており、今後も悪くなる。
		学校〔専門学校〕（教務担当）	・多くの企業から「仕事の受注が無く、募集の有無を検討中」という回答をもらっている状況である。

### 5. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ&コンサルティング（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計動向 関連	良くなる	住関連専門店（営業担当）	・新築物件は減っているが、リフォーム物件や今までストップしていた物件が、今後出始める。	
	やや良くなる	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・少しずつではあるが、人が動き始めている。飲食店への利用問い合わせも、徐々に増えてきている様子である。経済が活動し始めている。	
		一般小売店〔贈答品〕（経営者）	・総選挙の結果が出るまで様子見していた可能性があり、新しい政策によって家庭への現金が増えれば消費が伸びる。一時的な家庭への金額の増加ではなく、長期的に安心できる、家庭の自由なお金が増える方向に進めば、2、3か月かもう少しかかるかもしれないが、良くなる。	
		百貨店（販売担当）	・プロ野球の状況によっては、セールの影響がある。通常の場合でも、メーカーは例年の秋冬に比べて、質を維持したまま価格を抑えた商品の開発に力を入れており、厳しい状況下でも購入しやすい商品が充実するため、売上につながる。	
		スーパー（店長）	・消費の閉塞感が、政権交代により心理的に緩和され、少し動きが出る。	
		家電量販店（店員）	・前年9月の米国の大手金融機関の破たん以降に比べれば、景気は回復基調にある。省エネ家電のエコポイント制度により、年末までは良くなっていく。	
		乗用車販売店（営業担当）	・総選挙が終わり、客との会話のなかでは前向きな話も多くなっているため、これから景気は良くなっていく。	
		乗用車販売店（従業員）	・乗用車販売に関しては、全体的に動きが良くなってきており、今後もこの傾向が続く。	
		乗用車販売店（従業員）	・新車購入時の補助金と減税の効果によって、今後も販売量の増加が見込まれる。	
		乗用車販売店（総務担当）	・新車購入時の減税及び補助金による大きな効果は今後も続く。	
		スナック（経営者）	・総選挙が終わり多少期待しているが、厳しい状況は今後も続く。新型インフルエンザの影響が少し懸念される。	
		その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・政治の流れが変わるとともに、社会の雰囲気明るくなれば、多少は上向く。	
		通信会社（サービス担当）	・光回線の提供エリアの拡大に伴って、申込件数が増える。	
		テーマパーク（職員）	・入場者の消費意欲はやや高く、客単価も上昇基調にある。今後もこの状況が続く。	
		その他サービス〔語学学校〕（経営者）	・企画してきた営業促進策の効果が出てくる。	
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔室内装飾業〕（経営者）	・元請からの引き合いはほとんどないものの、個人からの見積依頼等は若干増えてきている。	
		変わらない	商店街（代表者）	・単価が上がってくる様子は全くなく、今後も現状のまま推移する。
			商店街（代表者）	・今が底と考えているためこれ以上悪くはならないが、客単価の低さは今後も変わらないため、横ばいが続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔電気屋〕 (経営者)	・省エネ家電のエコポイント制度があるうちは、あまり変わらない。
		一般小売店〔書店〕 (経営者)	・来客数は大幅に伸びているが、客単価は前年同月比10%強低下している。この傾向は今後も続く。
		一般小売店〔薬局〕 (経営者)	・新型インフルエンザ対策のマスク、消毒剤等は今は品切れとなり、売りたくても売れなくなる。一般の商品に関しても、消費者は不要不急品を購入しない傾向が続く。地場産業も底の状態が続く。
		一般小売店〔自然食品〕 (経営者)	・例年8月は固定客の来店回数が減り、一般客も減るという季節要因があるため、9月以降には客足は戻る。ただし、今後収入が増えるといった、食費を切り詰めている現状が改善される要素が聞かれないため、良くはならない。
		一般小売店〔食品〕 (経営者)	・客の様子を見ていると、買物に慎重であり出費も抑え気味であるため、消費が順調に伸びていくのはまだまだ先である。また、新型インフルエンザの更なる拡大を懸念する客が多く、秋口以降にこれが現実になると、景気の足を引っ張る大きなマイナス要因になる。
		一般小売店〔惣菜〕 (店長)	・前年の非常に厳しかった時期と比べると、明るい傾向が見え始めている。ただし、客の財布のひもはまだ固い。
		百貨店(企画担当)	・消費者の低価格志向に対応するには、百貨店の業態では限界がある。高額品の消費動向が上向きには、まだ時間を要する。
		百貨店(売場主任)	・晩夏物も、涼しいせいが例年より動きが良くない。買い控えはまだ続く。
		百貨店(企画担当)	・前年秋以降の低迷が一巡するため、今後の売上が前年を大きく下回ることではない。ただし、新型インフルエンザの動向によっては、来客数の減少が予測される。
		百貨店(企画担当)	・今後もセールやカード優待キャンペーン等によって需要喚起を図っていく。しかし、客はセール慣れしつつあるため、価格を安くしても飛びつく状態ではない。売上不振によって製品作りが慎重になり、魅力ある品ぞろえをできず、売上の確保はますます困難になるという負の循環に入っており、簡単にプラスに転じる動きにはならない。
		百貨店(経理担当)	・販売量は、前年と比べると悪いが、全体的に下げ止まりつつある。
		百貨店(外商担当)	・必要最低限の物しか購入しないという意識はまだまだ強く、食品以外は低迷が続く。個人外商では、高額品の購入を敬遠する傾向が強くなり、正念場を迎える。
		百貨店(販売担当)	・供給側の店やメーカーが、価格面ではなく消費者の感性に訴えていける商品を新たに作り出さない限り、購買心理に変化は生まれない。今は、客の心理を捉えたつもりでも、客に迎合しているという面のほうが強い。百貨店の本来のあり方のように、少し先を提案し客の潜在ニーズを掘り起こすことがない限り、消費に力強さは出てこない。
		スーパー(経営者)	・これだけ低価格志向が強いと、今後も消費は伸びない。また、今の経費削減の影響は今後各方面で顕在化してきて、影響を受けた企業の収益は減り、利益や所得も減少する。
		スーパー(店長)	・食費を節約して少しでも家計を節約しようとする客の動きは、当分変わらない。
		スーパー(店長)	・自動車産業等の休日出勤等も出始めているが、食品等の消費に回るような状況ではない。特に衣料品は買い控えが今後も続き、客単価が低迷する状況は続く。
		スーパー(店員)	・客の様子を見ても、景気が良くなる雰囲気はない。値引き商品を買って行く人が非常に多くなっている。
		コンビニ(エリア担当)	・売上が前年割れする厳しい状況は、当面継続する。
		コンビニ(エリア担当)	・業種を問わず閉店、廃業が多いため、店舗の置き換えを積極的に進めるコンビニチェーンに対する開発物件の紹介が多く、過当競争は一段と激化する。
		コンビニ(商品開発担当)	・需要が大きく増減する要因は見当たらない。今後も悪い現状が続く。
		乗用車販売店(経営者)	・最近車を処分する人が増えており、理由を聞くと、ほとんどが経済的な理由である。そうした様子を見ると、早期の需要回復は見込めない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由		
		乗用車販売店（従業員）	・前年9月以降には大きな落ち込みがあったため、今後は前年を上回ることが最低ラインであると考えている。しかし、例年のような需要期を迎えるとはとても考えられない。買換え減税、補助金に対応する車が追加されてくるので、それらを中心に少しでも財布のひもを緩めるよう努力する。		
		住関連専門店（店員）	・今後売上が上向き手ごたえは感じられない。		
		一般レストラン（スタッフ）	・客の注文単価が低いとか来店がないといった様子は見受けられないが、景気が良かった頃のような羽振りが良い客は、相変わらず見られない。これから徐々に良くなると思えない。		
		観光型ホテル（経営者）	・年内の来客数は前年比ややプラスで推移しており、製造業も徐々に仕事が始まった様子であるため、新型インフルエンザの流行や地震といった外部要因がなければ、現在の状態が今後も続く。		
		都市型ホテル（従業員）	・予約件数は変わっていない。		
		タクシー運転手	・コンサート等のイベントや大雨などの気象悪化に伴う突発的な需要増以外には、今より多忙になる要因は見当たらない。		
		通信会社（営業担当）	・上向きの気配は感じられず、今後も現状並みで推移する。光回線サービスのエリア拡大が今後のポイントになる。		
		ゴルフ場（企画担当）	・10～12月中旬はゴルフシーズンであるが、現時点での予約件数を前年同月と比べると、どこのゴルフ場でも大差はなく、2～3月先もあまり変化がない。		
		美容室（経営者）	・客の話を聞いていても、景気が良くなる話題は聞かれないため、当分この状態が続く。		
		その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・原材料価格の高騰に伴う利益率の低下のため、薄利多売の傾向が続く。品質維持のためコストは下げられず、先細りになる。		
		設計事務所（経営者）	・仕事量は、個人案件は低調であるものの、企業案件は少ないながらも安定した状況が続いている。今後も現状が続く。		
		住宅販売会社（従業員）	・不動産の購入意欲は高まっておらず、今後の住宅新築にはつながらない。		
		やや悪くなる		商店街（代表者）	・新型インフルエンザが流行する兆しがあり、良くなる要因は見当たらない。またそれ以上に、天候不順による農作物の不作に伴う原材料価格の高騰が懸念される。
				百貨店（売場主任）	・今年は夏のクリアランスセール期間が長く、前年に比べると8月の売上は良かったが、今後プロパー商品が中心になっても冬物に目がいく客はまだ少ないため、売上は今年よりも減少する。
百貨店（販売担当）	・クリスマス商戦に突入する時期は、前年も急激な景気悪化で苦戦していたが、今年は前年と比べても良くなる要素は更に少なく、この2、3か月で回復するとは思えない。				
スーパー（経営者）	・悪い状態は、3月以降ずっと続いている。底ばいで変わらないという声もあるが、先行きはまだまだ不透明であり、やや悪くなる。				
スーパー（経営者）	・地域の主力産業である輸送用機械器具製造業の下請企業等の様子を見てみると、まだ人員削減をしており、景気の回復は見込めない。まだまだ悪化することが、肌で感じられる。				
スーパー（営業担当）	・新型インフルエンザの流行が拡大しつつあり、ここ2～3か月間でピークになるとの報道がある。そのため、外出が控えられ、消費も鈍くなる。				
コンビニ（エリア担当）	・工場の稼働率は上がっていると聞くと、コンビニの売上にはつながっていない。弁当など比較的高単価な商品の売上は、厳しくなっている。客の様子を見てみると、必要のない物は絶対買わず、必要な物でも切り詰めて消費しており、今後も更に厳しくなる。				
乗用車販売店（従業員）	・小型車中心の販売は当面続く。販売後のメンテナンスもできるだけ割安に済ませようとする客が増えてきているため、収益は悪化する一方である。この数か月間そうした様子があったため、今の状態がしばらく続く。				
その他専門店〔雑貨〕（店員）	・新型インフルエンザの流行により、外出を控える人が増えると予想される。				
高級レストラン（スタッフ）	・今月は夏休みで週末を中心に家族客が戻ったが、来月以降もこの傾向を維持できると判断するだけの良い材料は見当たらない。				

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		都市型ホテル（経営者）	・新型インフルエンザの拡大いかんでは、また下振れする可能性がある。
		都市型ホテル（支配人）	・新型インフルエンザの流行による出張客の減少や宴会の自粛の影響が懸念される。
		都市型ホテル（営業担当）	・春先に新型インフルエンザが発生した時には、宿泊客、宴会客のキャンセルがあった。今後、流行による影響が本格化する懸念がある。
		旅行代理店（経営者）	・今後原油価格の高騰や円安に向かうとその影響は極めて大きい、その可能性を考慮して、今後はやや悪くなると判断する。
		旅行代理店（経営者）	・新型インフルエンザを始めとして、今後更に厳しくなる要因がある。
		旅行代理店（従業員）	・資金に余裕がないと旅行には出掛けられないが、今はまだ生活にお金が必要であるため、旅行業界が良くなることはない。
		通信会社（開発担当）	・メタル回線工事の業務量の減少に伴い、拠点事業所の集約が検討されている。
		理美容室（経営者）	・客の話を聞いても、景気が良くなる話題はあまり聞かれない。
		住宅販売会社（企画担当）	・会社では最近人員整理等を始めており、雇用が不安定になってきている。
		悪くなる	その他専門店〔貴金属〕（店長）
旅行代理店（従業員）	・新型インフルエンザの流行によって、旅行を取り止めたり、控える人は急増する。春先の発生時に秋に変更された団体旅行や、学校の修学旅行、遠足も、再び中止、延期が多発する。		
パチンコ店（経営者）	・客の可処分所得はここ1、2年でかなり減少し、この先も更に減少しそうである。今後も財布のひもは一段と固くなる。		
設計事務所（職員）	・建築業界では、3か月先の景気は大体今の時点で分かるが、今後は一段と悪くなる。今後良くなる経済状況になれば、もっとお金を使って良い住宅を建てようということになる。		
住宅販売会社（経営者）	・在庫物件を販売するにしても、原価割れが出ており、今後も厳しい。		
企業動向関連	良くなる	一般機械器具製造業（営業担当）	・米国、アジアの自動車産業では、具体的な引き合いが増えしており、設備投資の動きが出始めている。設備購入の予算を確保できるまでには至っていないが、生産技術の担当者からは設備購入の意思を強く感じる。数か月先には、いくつかのプロジェクトで受注を見込める。
	やや良くなる	パルプ・紙・紙加工品製造業（総務担当）	・最も悪い状況は脱しており、今後は前年同月比で3～8%良くなる。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・2011年7月の地上デジタル化に向けて、各方面で設備投資が本格化し始めている。
		輸送用機械器具製造業（総務経理担当）	・エコカー減税の影響により、売上は多少は上向く。しかし新型ハイブリッド車の仕事に直接関わっているわけではないため、多少良くなる程度である。
		輸送用機械器具製造業（統括）	・主力取引先からの受注は、今後も順次増大していく。
		建設業（経営者）	・需給のバランス調整が一段落すれば、多少は持ち直す。
		輸送業（経営者）	・メーカーの年内の生産計画は、前年比プラスとなっている。
		輸送業（エリア担当）	・中部地方の多くのメーカーでは、在庫調整はほぼ完了している。
		輸送業（エリア担当）	・主要荷主の一部から、増産の計画がある聞いている。また実際に、部品輸送のため大型車を1台増便する依頼を受けている。
		通信会社（法人営業担当）	・取引先から、残業が少しずつ増えてきたとか、先々の受注の兆しがあるといった話を聞いている。
		金融業（従業員）	・全体的な景気回復とまではいかないが、一部で少し上向いているという話を耳にする。
		不動産業（開発担当）	・名古屋市内の分譲マンション事業用地に、10社を超える入札があった。先行きは依然として不透明であるものの、在庫調整が進み、各社では新規の用地仕入れに取り掛かる余裕が出てきているため、今後はやや良くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	化学工業（総務担当）	・受注先の動向をみると、10月ごろまでは横ばいになっている。
		化学工業（企画担当）	・受注量の動きに変化はないが、下半期にやや回復することが予測されている。ただし、やや良くなると判断するほどではない。
		窯業・土石製品製造業（社員）	・磁性材料と電池材料以外の稼働率は、前年同月の60%程度となっている。今後もしばらくは横ばいが続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・今年2月以降、前年同月比4割減の状態が続いている。取引先に9月以降について聞いても、上向く様子はない。製造業では依然として残業がない状態が続き、収入も減ったままの状態が続く。
		電気機械器具製造業（経営者）	・9月以降の業界予測は、ハイブリッド車の効果などがあるだけで限界的であり、悲観的である。先行き不透明感が増してきている。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・年内には、工作機械や印刷機、ロボット関係の増産は見込めそうにない。
		輸送用機械器具製造業（財務担当）	・現在のハイブリッド車受注の好調さがいつまで続くか、不透明である。
		輸送業（エリア担当）	・9月の中間決算を控えて、経費削減の動きは今後も続く。
		金融業（企画担当）	・自動車関連を中心に受注回復の兆しはあるものの、最悪期を脱した程度であり、景気が良くなるとはまだまだ言いがたい。当面は現状が続く。
		広告代理店（制作担当）	・企画等の提案をしてもなかなか決まらず、今後も単発的で低価格な仕事を受注せざるを得ない。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・折込広告の回復が待たれるが、回復の可能性は低い。また、一般紙の購読中止も出てくる。
		会計事務所（社会保険労務士）	・これ以上悪くなることはないが、良くなる要素も見えてこない。年内は我慢と話す顧問先企業が多い。雇用調整助成金の利用はまだ続いており、新たに申請する企業もある。
		やや悪くなる	やや悪くなる
紙加工品〔段ボール〕製造業（経営者）	・夏の季節商材の出荷が止まるため、段ボールの販売量は減少する。また、例年と比べて製造量が減少しているため、労働時間が短くなり、景気は悪くなる。		
印刷業（営業担当）	・取引先等の様子から判断すると、まだもう少し悪くなっていく。		
鉄鋼業（経営者）	・大手企業の指標が好転しているといっても、大手企業の受注量は前年比7割程度である。下請の仕事量は3～5割で推移しており、今後も厳しい状況が続く。		
一般機械器具製造業（経理担当）	・受注先からの情報は下方修正が多く、今後も厳しい。		
電気機械器具製造業（企画担当）	・在庫調整が進み一時期と比べると生産は持ち直しているが、今後需要が急速に回復する要素もない。ずるずると下降していく。		
輸送業（従業員）	・原油価格の上昇が、非常に懸念される。燃料価格が上昇し輸送費がかさんでも、物流費への転嫁は難しい。		
不動産業（経営者）	・売買件数は変わらないが、価格低下に耐えられるかどうか、不安材料は多い。		
悪くなる	悪くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・以前ならば秋口以降は窯業界の需要が伸びる時期であったが、ここ数年間は住宅着工件数が一向に伸びず、回復の目処は全く立っていない。特にタイルの生産は最盛期の31.2%、食器は18.6%、衛生陶器は43.8%となっている。
		金属製品製造業（経営者）	・引き合いが減少しており、市場の縮小によって今後は更に落ち込む。
雇用関連	良くなる	人材派遣会社（経営企画）	・顧客企業の収益は徐々に回復しており、今後の需要増が見込まれる。
		人材派遣会社（社員）	・求人先企業からの予約状況が良く、今後求人数は増える。
	やや良くなる	人材派遣会社（社員）	・企業の正社員雇用に対する動きが少し出てきており、求人案件は増加する。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・製造業が少しずつながら具体的に動きつつあり、求人面でも力強さを増す。
	変わらない	人材派遣会社（経営者）	・求人の動きはほとんどないが、求職者の動きはあり、パランスが非常に悪い。同業者でも同様な状況になり、厳しい状況が続く。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		人材派遣会社（営業担当）	・顧客企業との打ち合わせでも、回復に向かう兆しは全く感じられない。
		人材派遣会社（支店長）	・非正規雇用の求人数は前年同月比で大幅なマイナスが続いており、求人数の増加は来年度以降になる。
		アウトソーシング企業（エリア担当）	・例年ならば、今の時期には来年1月以降の派遣受注もある程度予測できるが、現時点では年内の目処しか立っていない。
		職業安定所（所長）	・雇用調整助成金の申請件数は増加傾向にあり、運輸業など製造業以外の業種からの申請も出てきている。この傾向は今後も変わらない。
		職業安定所（職員）	・雇用情勢は悪い状況が続いているが、企業の先行き不透明感から、今後も悪い状況が続いていく。
		職業安定所（職員）	・求人数の増加は見込まれない。
		職業安定所（職員）	・秋から冬にかけて再び雇用調整をしたいとの相談がきている。雇用調整助成金によって雇用を維持している企業でも、今後も厳しい状況が続く。
		民間職業紹介機関（社員）	・企業の話や聞くと、採用開始は来年初めまたは来年度初めが目安になっているため、当面は変わらない。
		学校〔大学〕（就職担当）	・求人は少しずつ回復する兆しもあるが、水準はまだまだ低い。
		やや悪くなる	新聞社〔求人広告〕（営業担当）
悪くなる	人材派遣会社（支店長）	・9月末の派遣期間満了に伴う更新延長の確認をしているが、各メーカーによる非更新案件が多数あり、雇用情勢は今後一段と悪化することが見込まれる。また、緊急雇用対策関連を含めた官公庁の仕事についても、派遣会社間で値下げ競争が続いており、派遣各社の収益が一段と悪化することも予想される。	
	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・良くなる材料は全く見当たらない。県内の大学生の内定率は50%程度と、極めて悪い。大学は就職ガイダンスの継続を企業に要請しているが、企業は採用活動を早々に打ち切っており、就職ガイダンスへの参加もやめている。例年8月に採用活動する企業は中小企業が多いが、中小企業の動きは非常に弱い。	

## 6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	百貨店（売場担当）	・商品の単価が下がり、買上客数が多くなる。
		家電量販店（経営者）	・エコ関連商品の売上が大きく期待できる。特に太陽光関連商品は急激に売上を伸ばし、家庭用高効率給湯器やIH調理器といったオール電化商品もますます売上を伸ばしている。
	変わらない	家電量販店（店長）	・総選挙後には多少の経済の動きがでてくる。しかし、継続するかは不明である。
		商店街（代表者）	・節約、低価格傾向が、定着したものになりつつある。
		商店街（代表者）	・この夏は冷夏であったが、3か月予報によると気温の高い日が今後続くようであり、衣料品に影響が出る。夏物不振で秋物の仕入れの資金繰りに苦慮する店主も多い。
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・来客数、買上数量とも横ばいであるが、意図的なセールやイベントを実施した結果であるため、先行きが良くなるとは考えられない。
		百貨店（営業担当）	・秋冬物など新しいシーズン商品の展開を実施する時期であるが、例年であれば、この時期予約が入っているブーツやコートなどは予約が皆無に近い。余分なものは購入しない客の購買行動は今年いっぱい続く。
		百貨店（営業担当）	・来客数に極端な変化がないものの、何かを買えば何かを買わないといった消費態度が見られる。全体的には変化のない厳しい状況が続く。
		スーパー（店長）	・長雨等の影響で農作物などは非常に高値となっており、米も今後予想がつかない。そのため、消費者の購買意欲が向上するとは思わない。
スーパー（店長）		・総選挙の結果にかかわらず、不景気感はまだまだ続くであろう。今後拡大するであろう新型インフルエンザの状況だけでは、買物の自粛が見られるのではないかと予想される。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（総務担当）	・失業率の悪化、製造業の生産調整は相変わらず続いているため、家計支出を抑える傾向は変わらず、客単価は今後も前年を下回り売上は伸びてこない。
		スーパー（営業担当）	・客の買上点数、一品単価は前年比横ばいまで回復している。今後は、気温や外的要因もあるが、大きく回復する要素はない。
		衣料品専門店（経営者）	・商売を始めて60年になるが、今回のような不景気感を肌で感じたのは初めてである。客の買い渋り、安い商品志向、安くなければ売れない状況になっているので、この先も売上が上がることは不可能である。
		乗用車販売店（経営者）	・企業の業績が上向くまでは自動車の様な大型商品に庶民は食いついてこない。当面は低価格、低燃費、小型化傾向となり経営環境を含め上向く気配はまだ見えない。
		乗用車販売店（経理担当）	・ハイブリッド車の受注残が大きいので当面の販売環境に変化はないが、ハイブリッド車の受注にも若干陰りが出てきたので気がかりである。
		自動車備品販売店（従業員）	・9月の大型連休に向けてメンテナンス需要、ETC、ナビゲーション等の期待はあるが需要はすでに縮小に向かっている。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	・地域の中核産業である製造業での工場閉鎖や時短が続いている現状が変わらない限り、閉そく感に変化はなく売上は上がらない。
		高級レストラン（スタッフ）	・9月は大型連休があるが、受注では例年より客数が3割ほど少ない。特に夜の予約が悪い。
		一般レストラン（スタッフ）	・今夏の日照不足等により、米・野菜類の値上げが予測され、原材料の経費増が懸念される。食料品の値上げが続けば消費者の財布のひもが緩むことはない。
		観光型旅館（スタッフ）	・予約保有は改善傾向にあるが、10月、1月の前年比83～88%を除き、9月は同79%、11月、12月は同68%と大幅に前年割れとなっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・「おわら風の盆」の期間の予約状況が伸び悩んでいるほか、一般的に低調な状況となっている。
		都市型ホテル（スタッフ）	・予約から見て今以上に良くなる見込みはない。
		旅行代理店（従業員）	・いったん戻りかけた旅行需要が、秋から冬にかけての新型インフルエンザの流行拡大を懸念して、変更や見直し、さらには中止への動きに拍車がかかりそうな様相を呈している。
		タクシー運転手	・依然として節約傾向が続き、明るい兆しが見られない。しかし、悪い方向にも向かわず、横ばい傾向がしばらく続く。
		通信会社（社員）	・新サービス等販売量に影響する要因がない。
		通信会社（役員）	・大手通信事業者との競争が激しくなるなかで、契約者数の増加に鈍化傾向が見られ、今後の売上推移を従来の堅調な拡大予想から下方修正する可能性もある。
		その他レジャー施設（職員）	・売上高の減少に下げ止まり感が出ているが、増加に転ずる兆しはない。
		美容室（経営者）	・この消費不況は短期間で解消する様な客の雰囲気ではない。
	やや悪くなる	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・雇用情勢も悪く、これといった景気対策もない。このため客の収入も減少しており良くなる要素はない。
		スーパー（店長）	・競合店の新設により、来客数、単価、価格対応など当面は現状が続く、改善することは考えにくい。
		コンビニ（経営者）	・同業者との価格競争に加え、他の業態との競争がますます激しくなっており、価格の下落は今後も続くものと予想され、現状よりもさらに悪くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・夏物については、セールの前倒しなどで販売促進をかけたが、天候不順もあり売上は結果的に前年比2けたの減少となった。秋物についても好転の兆しは全く感じられない。
		スナック（経営者）	・来店する中小企業の経営者によれば、公的援助金でしのいでいるとか仕事量は例年の5割程度しかないという話を聞いていると、景気の回復は鈍いように思われる。
		観光型旅館（経営者）	・秋からの団体の受入れが前年より悪い。また、最近になって新型インフルエンザの流行もあり、旅行需要が減るのが心配である。
		タクシー運転手	・営業担当と思われる客が乗車すると、以前に比べて元気がないような感じを受ける。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（営業担当）	・お盆休み、9月の大型連休と長期休みが続くため、そこでお金を使う人が非常に多くなる。このため2、3か月後は購買活動が鈍化し、どんどん落ち着いていく。
		通信会社（営業担当）	・今後も新商品発売への買い控えが発生して、安価な端末に販売が偏ると予想される。
		住宅販売会社（経営者）	・来客数、問い合わせ数、イベント参加人数が減っている。
		住宅販売会社（従業員）	・総選挙の動向にもよるが、先行き不安定ななか、展示場への来場者数も減少し続けており、明るい見通しがたたない。
	悪くなる	住宅販売会社（従業員）	・客の動きが少ないことに加え、販売につながる状況も減っている。例年は、お盆以降一定の客の動きがあることから、これからの動きと比較すると昨年以下ではあるが、極端に減少することはなく、じりじりと販売量は減少する。
		一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	・総選挙の結果による政局の不安定や新型インフルエンザの流行などで景気後退が予想される。
		一般小売店〔事務用品〕（営業担当）	・総選挙の結果により、官公庁、民間ともにここ2、3か月は商売の話の優先順位が後退し、様子見の状況となり景気は悪くなる。
		コンビニ（経営者）	・飽和状態にある店舗数に加え、各チェーンの安売りセールのような競争状態は店舗経営をますます厳しくさせている。
		コンビニ（店長）	・競合するコンビニエンスストアが近隣に展開し、今後売上の激減が予想される。
		住関連専門店（店長）	・明るい兆しが見えない。良くなる要因が見当たらないのが現状である。
		旅行代理店（従業員）	・新型インフルエンザの影響で旅行業は雷雨状態になることを懸念している。
		テーマパーク（職員）	・団体、グループ、海外客および個人客の利用状況はどれも前年比で悪くなる傾向にある。加えて、新型インフルエンザの流行により、旅行自体がキャンセルまたは延期になる傾向が出てきており、全体としてさらに悪化する。
	住宅販売会社（従業員）	・当社の顧客である個人の消費環境が改善されない。	
	企業動向関連	良くなる やや良くなる	-
一般機械器具製造業（総務担当）			・政府やマスコミで経済状況が上向いているとの発表があるために、新規設備を抑えていた企業が投資を開始すると予測している。
電気機械器具製造業（経理担当）			・客先からは、新規製品等の引き合いが増加しているとの話が聞かれ、2、3か月後には上向いてくる。
通信業（営業担当）			・電話・システム更改などの需要が少しずつ出てきた。まだまだ低調だが、2、3か月後は期待できるかもしれない。
変わらない		金融業（融資担当）	・経済対策が奏功し先行きに明るさが見えてきたが、新政権の施策次第で景気上向きのエンジンがかかる。
		繊維工業（経営者）	・下期に向かって数量増の期待があるものの、現実には数字がなかなかまとまらない。繊維業界については合繊メーカーの規模縮小の動きが顕著で先行き不安が募る。
		繊維工業（経営者）	・婦人衣料、スポーツ衣料、非衣料ともに多品種小ロット対応さえできれば、先行きの受注が見込める。
		プラスチック製品製造業（企画担当）	・住宅市場が回復するのは年末から年明けとみており、3か月後は現状と変わらない。
		金属製品製造業（経営者）	・受注の入り具合をみると、現状と変わらない。
		一般機械器具製造業（経理担当）	・世界経済、特に主力先である欧米など先進国の回復がかぎであり、まだ時間がかかる。
		精密機械器具製造業（経営者）	・価格帯別に高低があるものの、少なくとも10月ぐらいまでの全体的な受注量は、現在とほぼ同程度のもので確定している。
		輸送業（配車担当）	・政権交代があるなかで、今後の市場環境に対する先行きが不透明であり、荷動きは少ない。
		金融業（融資担当）	・総選挙の結果、公共事業の今後の動向も含め、特に建設業においては先行きの判断がつきにくい状況である。
		不動産業（経営者）	・個人にしても、法人にしても、不動産の購入意欲がない状況が続いている。
新聞販売店〔広告〕（従業員）	・折込枚数がプラスに転じない限り景気が良い方向にあるとは言い難い。地域での出店などもないので数か月先も今の状況が続くと考えられる。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	やや悪くなる	食料品製造業（企画担当）	・小売店の陳列棚が9月から秋商材へ変わっていくにつれ、自社品採用を目指し製品価格の値下げ競争が一層激しくなることが予想される。
		建設業（経営者）	・総選挙で政権交代となった場合は、公共事業の凍結、見直し論議が必定となり、建設業全体に不安感がまん延し、それだけでも心理的にも景気後退となる。
		司法書士	・不動産業者や建設業者からは、過去の受注に関してはまだ仕事があるものの、今後の仕事に関しては、激減しているという話をよく聞く。
		税理士（所長）	・一時的なエコカー減税等による景気の上昇が見られるが、それに伴う消費が増えたとしても設備投資での還元は、現在の為替水準では十分ではない。現在のような円高水準となつて1年が経過するが、中小企業では円高による大企業の設備投資の縮小や価格の引下げに苦しめられており、景気対策も必要だが、抜本的な為替対策も必要である。
	悪くなる	建設業（総務担当）	・設備投資の回復の見通しが不透明であり、工事発注量の増加は見込めず、依然厳しい受注競争が続く。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・ライバル会社が県内から撤退するため、奪われていた客が若干戻り兆しがある。
		職業安定所（職員）	・企業からの短期的、臨時的求人の増加が見込まれる。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	・派遣需要件数の回復の兆しは見られず、就業希望の派遣社員は増えていくばかりである。
		人材派遣会社（社員）	・正社員の産休などの交代要員や急な退職に対する一時しのぎ的な求人しかなく、この状況がしばらく続く。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	・現状で安定していると感じる。一部業界で回復の兆しがあると報じられているが、大きな回復にはまだ遠い。生活者が生活防衛のために備蓄傾向にあり、消費は拡大していない。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・雇用調整助成金等の相談が多い。
	民間職業紹介機関（経営者）	・求人の少ないなか、雇用保険受給期間の終了した元派遣社員に加え、正社員離職者が増加し就職はさらに厳しくなる。	
	悪くなる	-	-

## 7. 近畿（地域別調査機関：りそな総合研究所（株））

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街（代表者）	・政権が交代し、閉そく感のあった社会が明るくなる感もあるため、実際の消費も上向く。
		百貨店（売場主任）	・今後の政局や新型インフルエンザの流行といった不安要素はあるものの、来客数が微増となっているほか、わずかながらも秋物商材の先買いがあることから、先行きはやや良くなる。
		百貨店（売場主任）	・店舗の改修工事もあるが、新たなメーカーの商品も入れて活性化を図ることで、食料品については少しずつ良くなる。
		家電量販店（経営者）	・エコポイント制度による効果や、太陽光発電への関心が高まることで、先行きはやや良くなる。
		乗用車販売店（経営者）	・エコカー減税や新車購入補助金の効果がしばらくは続くため、先行きはやや良くなる。
		乗用車販売店（営業担当）	・エコカー減税により販売量は確実に増えているため、先の見通しも明るい。
		高級レストラン（支配人）	・今後の新型インフルエンザによる影響は懸念されるが、以前のようなパニックに陥ることはない。観光シーズンの到来で来客数も増えるため、やや良くなる。
		観光型ホテル（経営者）	・新型インフルエンザの影響が出てこないことを祈るが、先の予約が入ってきているため、景気は徐々に回復している感がある。
		観光型旅館（経営者）	・9月の大型連休の予約が好調なほか、総選挙も終わったことで、今後はやや良くなる。
	その他サービス〔コインランドリー〕（経営者）	・売上が増加しており、今後も増加傾向となるの見通しから、コインランドリーを試験的に有人営業にする。	
	変わらない	商店街（代表者）	・客足の引きが早く、にぎわう時間帯が短い。客単価の下落と同様に、この傾向はしばらく続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔花〕（経営者）	・経費削減で定期契約の注文が減少している。祝い花も単価が下がっているなど、景気回復が小売業界に広がるまでにはまだ時間が掛かる。
		一般小売店〔時計〕（経営者）	・突然、近隣の店が相次いで突然閉店している。まだシャッター通りとまではいかないが、確実にシャッターの数は増えている。地域として寂しくなるほか、寂しい地域には人が徐々に集まらなくなるため、先行きについても安心できない。
		一般小売店〔鮮魚〕（営業担当）	・好転する判断材料が全く見当たらないため、今後も悪いまま推移する。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・景気が良くなるという話もなく、売上も伸びないため、今後も厳しい状況が続く。
		一般小売店〔花〕（店員）	・客の節約志向はかなり定着しているため、しばらくは今の状況が続く。
		一般小売店〔コーヒー〕（営業担当）	・中元のギフト商戦が一段落したが、ギフト分を含めても販売量が激減している。底まで落ちた感があるため、これ以上は悪くならない。
		百貨店（売場主任）	・秋物のトレンド商材は例年並みの活発な動きとなるが、ボリューム商材の動きは気候や気温に大きく左右されるため、不透明である。
		百貨店（売場主任）	・なかなか増えない収入や、景気の厳しさで、消費者の低価格志向が強まっている。その結果、来客数や販売量は大幅には増えないため、売上の増加は難しい。
		百貨店（企画担当）	・ファッションのトレンドをとらえたヒット商品が見当たらない。
		百貨店（企画担当）	・競合他社の改装オープンなどもあり、厳しい状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・秋冬物を展開し始めているが、客の態度が慎重で受注につながりにくいいため、今後も厳しい状況となる。
		百貨店（営業担当）	・店頭で低額商品が多くなることで、富裕客が本当に欲しがると高価格、高品質な商品が少なくなるため、今後も買上げが伸びない。
		百貨店（婦人服担当）	・米国の大手金融機関の破たんから1年が経過するが、百貨店の衣料品に明るい材料はなく、今後も状況は変わらない。
		百貨店（外商担当）	・企業間のばらつきはあるが、まだまだ中小企業が回復基調にあるとは感じられない。個人所得についても厳しい状況は変わらない。
		百貨店（店長）	・朝晩が少し涼しくなり、ファッション関係、衣類関係が少し動いているが、これも一時的な動きの感があるため、今後も厳しい状況が続く。
		スーパー（経営者）	・客は少しでも値段が高い物には手を出さず、安い物でも欲しくない物は一切買わないため、今後も厳しい状況となる。
		スーパー（経営者）	・政権交代で、先行きに不安を持つ消費者が少しは希望を持つかもしれないが、景気が急回復することはないため、当面は必要な物しか買わない傾向が続く。
		スーパー（店長）	・所得が増えない限り、消費者の購買意欲は改善しない。今後は生活防衛意識が更に強まるため、各社による低額商品の売り込みが激化する。
		スーパー（店長）	・政局の変化による景気回復を期待しているが、小売への波及は最後となるほか、過疎化の進む地方都市については期待しにくい。また、競合店とのシェア争いについても、今後は一段と厳しくなる。
		スーパー（店長）	・景気が良くなったのは経費削減などの企業努力の結果であり、個人の所得が増えたわけではない。所得が増えなければ本格的な回復には結びつかないため、現状は良くなる材料が見当たらない。
		スーパー（店長）	・今年は県下の夏の観光収入が減少し、当分はその影響が尾を引くことになるため、総選挙による雰囲気改善も効果がない。
		スーパー（経理担当）	・政権交代でこれまでお金を使えなかった層にお金回り、買物の仕方が変わる期待はあるものの、実現までには時間が掛かる。
		スーパー（広報担当）	・新型インフルエンザの流行など、先行きには不安要素が多い。
		スーパー（社員）	・前月以降、それまで堅調であった食品部門の売上や来客数の減少が続いている。昨年来の景気悪化が、個人消費の基礎的な部分にまで波及してきた感があるため、先行きの見通しも厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		コンビニ（経営者）	・近隣のオフィスビルでは大手企業の扱った空室が埋まり、来客数が増えるものの、客単価が低下するため売上は変わらない。
		コンビニ（店長）	・売上は厳しい状況であるが、下げ止まり感はあるため、これ以上は悪くならない。
		家電量販店（店長）	・政権交代により、エコポイント制度の打切りを心配した駆け込み需要が多くなる。また、パソコン用基本ソフトの新商品が発売されるため、新たな需要が発生する。
		乗用車販売店（経営者）	・確かに販売量は増えているが、客はまだまだシビアで無駄な買物はしない。より良い物をより安くといった感があり、財布のひもは依然として固いため、中途半端な商品は全く売れない状況が続く。
		乗用車販売店（経営者）	・今後も車検の予約、車の販売や修理はそれなりにあるものの、今の状態とはあまり変わらない。
		乗用車販売店（営業担当）	・今の好調には特需的な意味合いが強いものの、補助金が打ち切られるまでは、受注台数は良い状態が続く。
		住関連専門店（店長）	・当店の商品は買い換えサイクルが長く、どうしても今買わなければならない物ではないため、長期にわたって景気が上昇、安定しなければ回復は難しい。
		その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・支店の売上が単発で伸びることはあっても、長続きしないため、今後も厳しい状況が続く。
		一般レストラン（経営者）	・秋はいつも来客数が増えるが、今年は高速道路料金引下げの影響により、例年ほどは増えない。
		一般レストラン（経営者）	・新店舗は赤字が続くものの、婚礼シーズンで本店の売上が伸びるため、プラスマイナスゼロとなる。
		一般レストラン（スタッフ）	・来客数が増えていないため、3か月先についても大きな変化はない。一方、客単価は現状維持が続く。
		一般レストラン（スタッフ）	・天候不順や総選挙、米国経済の不振など、消費を上向かせる要因はないため、今後も大幅な改善は難しい。
		その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・活気がないほか、回復に向けての具体策がないため、先の見通しが全く立たない。
		観光型ホテル（経営者）	・一度は落ち着いた感のあった新型インフルエンザの感染が再び拡大しつつあるため、秋の団体予約にも大きな影響が出る。
		観光型旅館（経営者）	・消費者の給与所得が上向いてこない限り、景気の回復は期待できない。
		観光型旅館（団体役員）	・新型インフルエンザの再流行といった懸念材料があるため、今後も厳しい状況となる。
		都市型ホテル（マネージャー）	・宿泊部門では外国人観光者の回復が期待できるものの、新型インフルエンザの流行で落ち込む可能性もあるため、予断を許さない。さらに、宴会部門の予約状況が芳しくないため、先行きは非常に不透明である。
		都市型ホテル（役員）	・宿泊の予約状況は現在よりも若干上向いてきたが、客単価が上向く気配はない。また、宴会の予約状況も第3四半期は最悪の状況であり、ホテル全体の売上を低下させることになる。
		都市型ホテル（営業担当）	・宿泊は9月の大型連休も期待したほど動いていない。反対にビジネス利用の予約は減少しており、一般宴会の予約も厳しい状況となっている。特に、選挙期間に入って問い合わせ件数が極端に減っているほか、人の動きも悪い。さらに、新型インフルエンザの感染が再び拡大傾向にあることも不安要素となっている。
		旅行代理店（経営者）	・国内は予約件数、客単価共に悪化している。海外旅行は予約件数が前年を上回っているが、客単価の落ち込みが激しく、安・近・短の傾向が顕著である。株価が徐々に上昇している好影響もあるが、新型インフルエンザが本格流行する懸念もあるため、好転は難しい。
		旅行代理店（広報担当）	・今後は新型インフルエンザの感染拡大状況と、マスコミの報道にかなり影響される。さらに、前年は11月に2回の3連休があったが、今年は1回に減る影響も出てくる。
		タクシー運転手	・総選挙で政権交代が決まれば、2～3か月は世間が動くかもしれないが、その後については不透明である。
		タクシー運転手	・総選挙が終われば、夜の繁華街の飲食関係が少しは活気付く。
		タクシー会社（経営者）	・法人客、個人客共に、タクシーに関する節約は限界まで行うため、まだまだ今の厳しい状態が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		通信会社（経営者）	・状況がすぐに変わる様子もないため、今後も今の状況が続く。
		通信会社（企画担当）	・政府の景気刺激策で家電や自動車が売れているが、大きな買物をした後は財布のひもが固くなるため、アミューズメント業界にとっては逆風となる。
		観光名所（経理担当）	・今月は暑さがしのぎやすかったことで、来客数が伸びている。ただし、売上は前年並みであり、財布のひもはなかなか緩まない。先行きの不安が解消されない限り、今後も消費は上向かない。
		競輪場（職員）	・政権交代があれば一時的に高揚感が出るものの、長続きしない。
		その他レジャー施設 〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・好材料が見当たらないほか、総選挙の結果にも即効性はない。
		その他サービス〔生命保険〕（営業担当）	・消費者が先行きに不安を持っているため、生命保険への加入を控える傾向が続く。
		その他サービス〔ビデオ・CDレンタル〕（エリア担当）	・都心部の店舗では売上の前年割れが続いているため、今後も厳しい状況となる。
		住宅販売会社（経営者）	・成約の見込める物件については、品薄状態がしばらく続くなど、不動産の流通が活発化する要素が見当たらない。
		住宅販売会社（経営者）	・住宅業界を取り巻く環境是最悪の状態、客の間には雇用不安も多く、マイホームの購入動機がない。新聞の折込チラシや住宅情報誌、ホームページなどの広告媒体を駆使しても、とにかく集客率が悪いいため、今後についても厳しい状況となる。
		住宅販売会社（経営者）	・秋の住宅需要期を迎えるが、流通在庫の消化が進んでいないため、例年ほど動きは良くならない。
		住宅販売会社（従業員）	・今年中は今の状態が続くものの、在庫処分にある程度のめどが付けば、来年から中堅デベロッパーの動きが出てくる。
		住宅販売会社（従業員）	・マンション価格は下げ止まるものの、来客数は停滞した状態が続く。
		住宅販売会社（総務担当）	・成約まで時間が掛かるほか、同業他社との競争も激しいため、全体の成約数は伸びない。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・金融機関の融資姿勢によって変わるため、どの方向に進むのかは不透明である。
		その他住宅〔展示場〕（従業員）	・住宅ローン減税に期待したものの、思ったような効果が出ていない。新たな住宅需要刺激策にも期待できないため、状況はしばらく変わらない。
		その他住宅〔情報誌〕（編集者）	・景気全体に回復の兆しが少なく、特に不動産業界には変動要因が見当たらない。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・経営者の高齢化や、体調不良で閉店する店が増えている。また、食品スーパーの営業時間の短縮などで客足の引きが早く、客単価も落ち込むなど、良い材料が見当たらない。
		一般小売店〔雑貨〕（店長）	・タスポ導入後に売上が半分に落ち込み、これ以上は悪くならないと思っていたが、その後も悪化が進んでいるため、更なる悪化もあり得る。
		一般小売店〔カメラ〕（販売担当）	・最近では再就職用の証明写真を撮る客がよく来店するが、就職の話が全くないため、撮る写真が徐々に減っているなど、先行きの見通しは厳しい。
		百貨店（サービス担当）	・異常気象により農作物の価格が秋以降に上昇するほか、新型インフルエンザの再流行で来客数が減少するため、売上は落ち込む。
		百貨店（商品担当）	・一度は売上が回復したが、8月に入って不要な物を買わない傾向が更に強まっている。ジュエリーなども、すぐに必要な物でなければ購入が控えられているため、先行きの見通しは厳しい。
		百貨店（売場担当）	・新型インフルエンザの流行拡大や、野菜を中心とした食物の値上がりといった不安定な要素が目立ち、消費意欲を刺激する材料が見当たらない。
		スーパー（経営者）	・天候不順によるダメージを受けた業種は多いため、秋にかけて景気に悪影響が出てくる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・政府の財政出動で一部の産業は最悪期を脱したと報じられているが、小売業、特にスーパーは個人消費の動きに直結しているため、更に厳しくなる気配である。消費者の節約志向、生活防衛意識に加え、雇用不安と物価下落の同時進行が更なる悪化につながる。
		スーパー（店員）	・近隣に新しくスーパーマーケットができるため、先行きはやや悪くなる。
		スーパー（企画担当）	・消費の不振が続くほか、暖冬が予想されているため、先行きはやや悪くなる。
		衣料品専門店（経営者）	・価格の比較的高い商品は仕入れていないため、売上も下がっていくという悪循環に陥る。
		衣料品専門店（経営者）	・株式の配当減や雇用不安により、財布のひもがより一層固くなる。
		その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・新型インフルエンザの流行が落ち着けば、消費も元の落ち込んだ状態に戻る。今の消費者は我慢強く、浮かれた消費をしなくなっている。
		その他専門店〔食品〕（経営者）	・新型インフルエンザの感染拡大による影響が懸念される。今度は関西だけでなく全国的に影響が出るため、イベントや文化祭などの行事も中止になる。
		その他専門店〔医薬品〕（店員）	・客の間には低価格志向が強く残っており、特にチラシの商品を中心にある程度の値引きを行わなければ、商品の売れない状況が続く。
		観光型旅館（経営者）	・現在の予約状況などから判断すると、先行きはやや悪くなる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・婚礼、宴会は平年並みの予約状況であるが、宿泊部門では新型インフルエンザの影響で海外からの観光客の動きがまだに止まっているため、先行きの見通しは厳しい。
		都市型ホテル（スタッフ）	・法人利用では経費の削減がみられ、定例会合の規模が縮小しているほか、出張でも回数や人員の減少、日程の短縮が目立つなど、予約状況が極端に悪い。また、レストランも夕食利用の落ち込みが大きいなど、先行きについては非常に厳しい。
		タクシー運転手	・新型インフルエンザの流行が拡大することで、人の動きが鈍くなる。
		通信会社（経営者）	・新商品の発売や大きな値下げの予定が少ないため、盛り上がり欠ける。また、下半期は各通信会社が代理店に支払う販売促進費を抑制するとの予想もあるため、市場が冷え込むことになる。
		観光名所（経理担当）	・ここへきて新型インフルエンザが再流行しているため、特に団体客が減少することになる。
		その他レジャー施設〔球場〕（経理担当）	・9月はプロ野球の試合や人気アイドルグループのコンサートが開催されるので集客が増えるものの、プロ野球シーズンが終わる10月以降は企業イベントが主となるため、集客は減少する。
		美容室（経営者）	・新型インフルエンザの流行拡大で、外出を控える客が増える。年配客の多い当社では、5月のように売上に大きな影響が出る。
	悪くなる	商店街（代表者）	・賃下げやボーナスカットの影響がますます大きくなるため、客の購入意欲が減退する。
		一般小売店〔衣服〕（経営者）	・秋物衣料の打ち出しについて、様々な企画の準備は整っているが、購買につながるかどうかは不透明である。
		一般小売店〔珈琲〕（経営者）	・大規模小売店における低額商品の販売競争が激化しており、小売全体の衰退につながる。また、各業界でのコスト削減の影響がメーカーの利益を圧迫し、それが雇用調整につながるという負の連鎖が始まっている。
		一般小売店〔精肉〕（管理担当）	・夏が終わらないうちに新型インフルエンザが流行期に入るとは、先が思いやられる。特に神戸は前回に大きな痛手を受けており、その影響をいまだに引きずっているため、大きな打撃を受ける。
		百貨店（マネージャー）	・新型インフルエンザの流行で外出を控える人が増えれば、確実に来客数が減るため、売上にも深刻な影響が出る。
		コンビニ（店長）	・ここ数年は売上のペースが下がり続けているほか、景気回復の兆しもないため、更に苦しい状況となる。
		スナック（経営者）	・新型インフルエンザによる来客数への影響については、この秋から冬にかけて以前よりもひどい状態が出てくる。
		タクシー運転手	・今の状況から考えると、秋の気配が感じられるようになれば悪化していく。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		テーマパーク（職員）	・新型インフルエンザが早くも再流行の兆しとなっており、必要な外出以外は控えられるため、秋の行楽シーズンへの影響は甚大なものになる。
		遊園地（経営者）	・8月に入って新型インフルエンザの拡大が更に広がっており、秋、冬にかけて大流行する懸念があるため、レジャーに対する消費者のマインドが一層冷え込む。
企業動向関連	良くなる やや良くなる	木材木製品製造業（経営者）	・新規事業の計画が販売の増加につながれば、売上や利益が伸びる。
		出版・印刷・同関連産業（情報企画担当）	・例年10～12月は受注が安定する時期となるが、今年は医療や環境関係が良い一方、製造業、住宅関連にはまだ回復の兆しがない。
		化学工業（管理担当）	・家電向け材料については、景気対策の効果で年内は堅調に推移する。その一方、春以降全体をけん引してきた携帯電話向けは、新製品の投入効果が一巡するため秋からは減少に転じる。
		電気機械器具製造業（経営者）	・米国や欧州の状況は不透明であるが、中国や東南アジアは良くなっており、雰囲気も非常に明るくなっている。アジア方面は安い製品が中心であるため、さほど悪くはならない。
		電気機械器具製造業（営業担当）	・前年に比べると水準は低いものの、ようやく受注量が増えてきたため、先行きはやや良くなる。
		建設業（経営者）	・見積り依頼など、受注にやや改善の兆しがあるため、少しは良くなる。
		建設業（営業担当）	・具体的な理由は分からないが状態は安定しているため、先行きはやや良くなる。
		輸送業（営業担当）	・企業間の荷物の動きは減っているが、企業から個人への荷物が通販以外でも増えているため、先行きはやや良くなる。
		広告代理店（営業担当）	・秋から年末に向けての企画提案物件が増えている。
	その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・従来の景気政策では中小企業に恩恵が少なかったが、子育て支援などの各種手当が速やかに行われることで期待が持てる。消費マインドが上昇し、教育関連などの支出増につながることで、消費の底上げが進む。	
	変わらない	家具及び木材木製品製造業（営業担当）	・ここ半年ほどは受注の動きがないため、今後も厳しい状況が続く。
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・客からは良くなる話が聞かれないため、今後も厳しい状況が続く。
		化学工業（経営者）	・一部で明るさも出てきたが、得意先の取引先が倒産したり、信用のできない手形が回ってきたりと、全く安心できる状況ではない。
		金属製品製造業（経営者）	・全体的に通常の70～80%しか受注がなく、これ以上良くなる気配もない。
		金属製品製造業（総務担当）	・民間工事が非常に少なくなっており、同業者間の生き残りをかけた競争が当分は続く。
		金属製品製造業（営業担当）	・建築関連の回復が遅れているため、今後も厳しい状況が続く。
		一般機械器具製造業（経営者）	・周囲の企業は回復がまだまだであるため、景気全体としてはそれほど回復しない。
		電気機械器具製造業（経営者）	・新たな問い合わせは活発であるが、得意先からの設備発注は回復していないため、売上が増えない。市場では在庫調整にめどが付いたと報じられているが、大手企業はコストの高い国内生産の増加に慎重なため、大口の商談が動かない。特に、産業用機械については国内市場の先行きは暗い。
		電気機械器具製造業（宣伝担当）	・現状から更に好転する要因が見当たらないため、今の状態が続く。
電気機械器具製造業（企画担当）		・景気全体が良くならなければ住宅の購入マインドも上がらないため、悪い状態が年末まで続く。	
その他製造業〔履物〕（団体役員）	・一部の業界では回復が報じられているが、履物業界は依然として低迷しており、明るい兆しはない。		
建設業（経営者）	・政権交代すれば公共工事が激減する可能性もあり、先行きは不透明である。民間企業による工事も、計画が出てくるのは景気回復後になるため、まだ先の話である。		
輸送業（総務担当）	・顧客から明るい話が聞かれないため、今後も厳しい状況が続く。		
輸送業（営業所長）	・不景気を理由に物流費の値下げを迫られており、先行きの見通しは厳しい。		

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		広告代理店（営業担当）	・良い話が聞こえてこないため、先行きの状況も厳しい。
		広告代理店（営業担当）	・広告量は紙媒体、インターネット媒体共に前年の半分程度で推移しており、今年に入っても変わっていないため、今後も厳しい状況が続く。
		経営コンサルタント	・現状から変化はないものの、政権交代や新型インフルエンザの感染状況といった要素次第では、更に悪くなる。
		司法書士	・事件数の少ない状態が長く続いており、良くなる要素や原因が見当たらないため、当面は現状維持の状態が続く。
		その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・大きく景気の良くなる要素がないため、状況は変わらない。
		その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・取引先の予算がなく、設備投資の計画もないため、年内は今のような不況が続く。
	やや悪くなる	食料品製造業（従業員）	・総選挙の結果による景気への影響は不透明であるほか、いまだに家計の財布のひもも固い。安価な製品の動きはあるが、それ以外の製品の荷動きが悪いため、先行きの見通しは厳しい。
		繊維工業（総務担当）	・受注量や販売量の減少に伴い、値引き要請にも拍車がかかっているため、業績の悪化が更に進む。
		繊維工業（団体職員）	・年末需要期を控えた時期となるが、現時点で引き合いなどの動きはみられない。
		繊維工業（総務担当）	・催事の来客数が減っているが、今後は新型インフルエンザの影響も出てくる。
		化学工業（企画担当）	・いまだに乳脂肪原料を多く含む高額製品は受注量が伸びておらず、バターも過剰在庫となっている。業界大手が原料用バターの値下げに踏みきった一方、糖類はインドの雨不足や投機マネーの流入で高騰するなど、原料価格は天候や投機マネーの動き次第で急変動することから、先行きの見通しは厳しい。
		建設業（経営者）	・総選挙後はどの政党が政権を取ってもしばらくは低迷が続くほか、既に流行しつつある新型インフルエンザが秋に向けて大流行する。
		金融業（支店長）	・政権交代により、経済がどの方向へ向かうかが不透明であるため、不動産業界では様子見の状況が続く。
		新聞販売店〔広告〕（店主）	・失業による経済的理由で購読を止める客や、3か月ほど購読料の滞っている客が数人みられるなど、先行きの見通しは厳しい。
悪くなる	コピーサービス業（従業員）	・既に新型インフルエンザの流行する兆しが出てきており、今後消費は更に冷え込む。前回と違い、今回は影響が長期に及ぶ可能性があるため、深刻な問題となる。	
	不動産業（営業担当）	・賃貸事務所の需要がなく、供給が増えているわけでもないのに空室率が高まっている。企業が他の大都市への拠点の集約を進めていることで、今後はますます悪化が進む。	
雇用関連	良くなる	-	-
		やや良くなる	人材派遣会社（経営者）
		人材派遣会社（経営者）	・製造業を中心に求人件数の増加が期待されるものの、景気の先行きは依然不透明であり、契約期間の短期化する傾向が強い。大幅な稼働者数の増加には、まだまだ時間が掛かる。
		求人情報誌製作会社（企画担当）	・まだまだ予断は許されないが、アウトソーシング業界では非正規求人数が増えつつある。
		新聞社〔求人広告〕（管理担当）	・総選挙で政権が変われば、新たな雇用対策も打ち出され、現在の閉そくした状況から少しは上向く。
		民間職業紹介機関（支社長）	・求人数が底打ちしただけでなく、次世代の幹部候補の求人なども出てきている。海外経済の回復や在庫調整、リストラの一巡により、求人企業には攻めの姿勢がみられるため、先行きはやや良くなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・10月以降も採用活動を続ける企業が出てきている。
		変わらない	人材派遣会社（支店長）
	新聞社〔求人広告〕（担当者）		・10月に医療関係での企画広告を予定しているが、それ以外は上向き要素がない。秋以降もこのままの状態が続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・8月の終わりになり、企画の枠が埋まり始めている。下げ止まりや底打ちを感じている広告会社の営業担当もいるため、好転の兆しはないものの、これ以上の悪化もない。
		職業安定所(職員)	・下請会社や孫請会社にしわ寄せが来ており、休業する事業所が後を絶たないため、今後も厳しい状況が続く。
		職業安定所(職員)	・雇用調整助成金を利用して約1年の事業所から、1年が経過した後も利用できるのかといった問い合わせが増えている。
		職業安定所(職員)	・新規求人数は4か月連続で減少しているものの、製造業では2か月連続で増加するなど、若干明るい材料が出てきている。
		職業安定所(職員)	・有効求人数が7か月ぶりに前月を上回ったが、秋以降の見通しが不透明なため、求人数が増加傾向に転じるかは分からない。ただし、求職者数の増加幅も縮小してきたため、有効求人倍率は下げ止まってくる。
		職業安定所(職員)	・最近求人が出てこなくなった企業からは、生産や売上が回復しても欠員補充はせず、忙しければ残業で対応するとの声が聞かれるため、今後も求人数は回復しない。
	やや悪くなる	人材派遣会社(支店長)	・総選挙の結果にもよるが、今のところは3か月後に景気が良くなる材料が見当たらない。
		職業安定所(職員)	・産業別の新規求人数では、製造業が前年比で約50%減少しているなど、まだまだ見通しは暗い。
		民間職業紹介機関(大学担当)	・企業の建て直しに伴うリストラなどで景気の悪化が進むため、企業を支援する早急な対策が必要である。
	悪くなる	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・3か月後も上向き兆しが全くなく、特に大阪の企業に動きがない。

#### 8. 中国(地域別調査機関:(社)中国地方総合研究センター)

(- : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	商店街(代表者)	・選挙の結果にもよるが、中国地域の経済状態は徐々に良くなっているため、消費も良くなる。
		商店街(代表者)	・客の声からも政治転換期に当たっていること、更に気持ちやや明るくなってきていることが感じられる。
		一般小売店〔靴〕(経営者)	・季節が変われば、購買意欲が上がる。また9月初めの市長選が終われば落ち着いて、購買意欲が上がる。
		百貨店(販売促進担当)	・前年比で売上90%台という状況が大きく変わる要素が見当たらないが、個々のテナントの売上状況を見ると、前年を超えてきているところも散見されるようになり、また、7月の90%から多少上向いている状況を見ると、最悪期は脱した。これから徐々にではあるが、回復傾向に向かう。
		家電量販店(店長)	・家庭用高効率給湯器、太陽光などの商品に方向転換し、売上低下に歯止めを掛ける。
		乗用車販売店(統括)	・来年3月までは減税、補助金の効果が利く。
		乗用車販売店(営業担当)	・購入補助金と減税措置の影響が大きく、今は慎重になっている方の購入が、2~3か月後にまとまる。
		その他飲食〔サービスエリア内レストラン〕(支配人)	・9月の大型連休、秋の行楽シーズンで客の動きは活発になる。
		テーマパーク(広報担当)	・秋のイベントとそのPR、高速道路料金引下げの効果で、比較的遠方からの来客も増加する。
		設計事務所(経営者)	・期待もあるが、総選挙が終わり、政権交代でご祝儀的に景気が少しは動く。
	住宅販売会社(経理担当)	・政権交代による景気対策への期待から、一時的には景気が好転するが、長続きはしない。	
	変わらない	商店街(代表者)	・中心市街地の商店街では、現状より良くなる要素が現在のところ見当たらない。しかし、補助金などの支援がある事業が動き出したので、少しは期待できる。
		商店街(代表者)	・過去3か月、私の店舗や近くのスーパーなどを含めた商圈自体が非常に悪くなっていて、売上が10%近く落ちており、良くなることは期待できない。
		一般小売店〔酒店〕(経営者)	・ニュースやメディアで、景気の回復基調や季節労働者の雇用など明るいニュースが報道され、地元の自動車関連企業の受注も増加しているようだ。これが波及すれば地方都市でも購買意欲や消費者心理が向上してくる可能性もある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		一般小売店〔酒店〕 (営業)	・景気の底打ち感はあるものの、財布の固さは相変わらずである。失業率が改善されるなど、外部の環境が変わらない限り回復は見込めない。
		百貨店(営業担当)	・新型インフルエンザが秋に向けてますます流行し、客が外出を控えるようになることにより、来客数が減少する。
		百貨店(営業担当)	・秋物商材の立ち上がり状況も厳しく、大きく売上が浮上する見込みが立て難い。
		百貨店(販売促進担当)	・大きな回復は期待できない。取引先も秋冬商戦は前年マイナスの売上目標を設定して、それに応じた生産を進めているため、特に地方店舗は適品確保さえ難しくなる。
		百貨店(購買担当)	・今月の最終日曜が総選挙で、通常なら売上などに多少は影響がある程度で来客数は変わらないのだが、今年は来客数が例年の半分しかなく、政治に対する並々ならない関心を感じている。それだけ選挙の結果からは様々な影響があると考えられるが、それに期待していいのか、具体的にどんな影響があるのか、全く分からない。
		百貨店(売場担当)	・米国の大手金融機関の破たんから概ね1年ということで、前年比でいえば、これからはここ1年ほどの下落率にはならない。ただ、従業員を募集しているが、応募が増えてこないのは気掛かりである。
		百貨店(販売担当)	・景気の底入れ感はあるものの、まだまだ先行きは不透明であり、急激な消費の回復は見込めない。
		スーパー(店長)	・夏場の天候不順により野菜の値段が高騰の傾向にあり、主婦は生活防衛のためにできるだけ安く、必要なものを、必要なだけしか購入せず、この傾向に今後も変化はない。
		スーパー(店長)	・消費の低迷が続いており、今後もこの傾向は続く。
		スーパー(総務担当)	・単価の下落を販売点数でカバーできているが、新型インフルエンザや暖冬の影響が不透明である。
		スーパー(経理担当)	・政治等の変化で多少の上向き要因は考えられるが、地方までの波及には時間がかかる。
		スーパー(管理担当)	・消費が活発になると思われる要因もなく、買い控えが今後も続く。来客数の減少はないため、売上減少になることはないのだが、増加の見込みもない。
		コンビニ(エリア担当)	・来客数がようやく下げ止まったが、しばらくこの状態が続く。客は相変わらず店の使い分けをしており、安価な店へと流れる傾向が強い。
		コンビニ(エリア担当)	・客の低価格志向は相変わらずで、販売量は価格で左右されるようにはなりつつあるものの、数量的には戻ってきている。年末に向けての商談も順調であり、売上も順調な回復傾向が続く。
		衣料品専門店(経営者)	・悪くなったままの状態に、変化の兆しが見られない。
		衣料品専門店(店長)	・気温が不安定なため、例年ならもう秋物が動いているのだが、今年はまだそんな動きはなく、先行きも分からない。
		家電量販店(店長)	・薄型テレビについてはエコポイントのポイント数が多いためこれからも売れるだろうが、冷蔵庫、エアコンについてはポイント数も小さくてこれからも厳しい状態が続く。
		家電量販店(店長)	・価格競争の激化により大型商品の単価ダウンに歯止めが掛からない。売上高の柱であるパソコンで、新ソフトが10月に発売されるので、それまで買い控えの傾向が強くなる。
		乗用車販売店(統括)	・選挙の後景気が良くなると思いたい、インフルエンザなど不安なこともありいい要素を感じない。
		自動車備品販売店(経営者)	・ETC特需も一服すると思われ、新規顧客の来店が減少する。基調的には伸び悩んでおり、回復を実感するには不十分な状態が続く。
		その他専門店〔布地〕 (経営者)	・秋物商材に一部やり変えたが、もう一点を求める客の数が少なく、この状態はこれからも続く。
		その他専門店〔和菓子〕 (営業担当)	・大幅な景気回復が見込める要素がない。
		一般レストラン(店長)	・良くなる要素も悪くなる要素もなく、このままずるずると推移していく。
		スナック(経営者)	・これ以上悪くなるとは困るし、これから良くなって欲しいが、その雰囲気もない。
		その他飲食〔ハンバーガー〕 (経営者)	・外食への意欲が低下しており、アイデアも追いつかない状態であり、しばらくこの状態は続く。
		観光型ホテル(スタッフ)	・9月の大型連休と、その後の行楽シーズンで巻き返しを期待したいが、新型インフルエンザなどの影響が懸念される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光型ホテル（経理総務担当）	・リゾートホテルは9月が閑散期であることに加え、10月以降も予約等の状況は良くない。
		都市型ホテル（従業員）	・総選挙を目前にし、予約が止まっている状況であり、選挙後の動向は不透明である。
		タクシー運転手	・希望も込めているが、これ以上悪くなる感じはない。
		通信会社（社員）	・最近の販売などの傾向を見ると、良いとはいえないまでも若干販売量は増えている。継続的かどうかは様子を見る必要がある。
		通信会社（企画担当）	・当社商材の売行きについては、底を打った感はあるものの、増加する要因は何もない。
		通信会社（営業担当）	・ケーブルテレビ・インターネットともに、新規加入は引き合いが少なく、顧客の反応が鈍い状況が続く。
		設計事務所（経営者）	・建築に関して、状況が好転するような情報は聞こえてこない。
		住宅販売会社（従業員）	・客の様子などから見て、受注量、受注金額ともに非常に厳しい状態は、今後も続いていく。
		住宅販売会社（販売担当）	・展示場イベントへの来場者が前年比で増えないため、今後の受注量の増加も見込めない。
	やや悪くなる	一般小売店〔紙類〕（経営者）	・景気自体は好転していないにもかかわらず、高速道路料金引下げや船舶料金の値下げにより人が動いたため、その反動がこれから一気にくる。
		一般小売店〔印章〕（営業担当）	・当社は名刺やスタンプなども扱っているが、見積の要望が多く、より安い価格でも納品を求められている。これから地方は地域間の競争より、通販やチェーン店との競争が激しくなる。
		百貨店（売場担当）	・純然たるプロパー商品に対しては、客は店頭で非常に厳しく選択している。豊富とはいえない在庫しかない状況で、売上が前年を超えることは難しい。割引やアウトレット、キャッシュバックなど価格に対しての仕掛けでないと、客が反応しなくなっている。
		スーパー（販売担当）	・インフルエンザに掛かっている小中学生の話も聞かれ始め、この先の流行具合によっては、売上が下がることも考えられる。
		衣料品専門店（地域ブロック長）	・量販店の低価格戦略が秋以降も続き、価格競争が更に厳しくなる。
		衣料品専門店（販売促進担当）	・ここにきて、客の財布のひもがかなり固くなって、価格に対して厳しくなっている。この冬も高単価のものが厳しいと予想され、景気回復まではまだまだ時間がかかる。
		都市型ホテル（経営者）	・2～3か月後の予約率が、前年との比較で、5%以上マイナスとなっている。多少価格を変動させても、回復の兆しがない。
		都市型ホテル（スタッフ）	・不景気を理由に宴会を行わないことと、新型インフルエンザの影響も懸念されることにより、先の宴会予約の受注が少なく、申込は間際になってからが多い。
		タクシー運転手	・10月から政府においてタクシーの需給調整を考えているというが、現在の社会不安、インフルエンザなどを考え合わせると、現状の売上前年比10%減が続いている状況が改善するとは思えない。
		タクシー運転手	・観光等に期待したいが、ここ3か月の動きを見ればそう大きな動きはありそうにない。一般企業にとっても交際費の枠が増えるということは考えられず、客の財布のひもも固いまま推移する。
		テーマパーク（業務担当）	・秋季から冬季にかけて利用促進としてイベントを開催するが、新型インフルエンザの大流行の影響による出控えなどが懸念される。
		ゴルフ場（営業担当）	・景気回復を望み、良くなると思いたいですが、客がサービス業にお金を落とすのは最後なので、まだ値引き合戦、過剰サービスが続く。
		設計事務所（経営者）	・経済状況が安定している雰囲気客に定着するまで、購入に消極的な傾向が続く。
	悪くなる	商店街（代表者）	・建築業、製造業の友人と話をしても、景気は益々、しかも加速度的に悪化し、どこが底か分からないというのが、共通した認識である。
		商店街（代表者）	・政権が変わって高速道路が無料になれば、休日の来客数が増えます。
		商店街（代表者）	・自分の子供に店を継がそうとする商店主の店舗が無くなってきている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・同じ館内、付近の商店街でも退店、閉店する店舗が目立っており、地域としての魅力がなくなってきたと考えており、これからも悪くなる。
		スーパー（店長）	・雇用と収入が安定していないので、客は生活防衛本能が働いて、支出を抑えている。さらに競合の出店で、商圏の状況がさらに悪化している。
		スーパー（財務担当）	・企業のコスト削減により、個人所得はますます減少し、個人消費の低迷は今後も続く。
		乗用車販売店（経営者）	・現在はエコ減税や補助金などによって活発に動いているが、政治の不安定さが、少し上向き加減の景気に水を差すのではないかと懸念が大きい。
		住関連専門店（広告企画担当）	・とにかく価格が低いことが正義になっている。国内での製造では限界が来ているので、品質より価格に特化した品ばかりが売れ、この業界の従事者にとって厳しさが増していく。
		美容室（経営者）	・値下げしている店舗も多いが、新規の店舗は通常の半分程度の値段を設定するようになってきている。最近是不景気のせい、客はどんどんそういった店舗に流れており、この流れは止まらない。
		美容室（経営者）	・個人事業主の客は景気の悪い状態が続いており、景気の回復が早まらないのならば、もう廃業しようという話が聞こえている。
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・鉄鋼業の生産に底打ち感があり、鉄の生産に直結した製品の需要が増加する。
		鉄鋼業（総務担当）	・市場の部品在庫が徐々に解消し始めてきており、今後、景気の上昇に期待できる。ただし、円高や悪天候、新型インフルエンザが消費マインドを低下させないか懸念している。
		非鉄金属製造業（経理担当）	・ペースは鈍化するかもしれないが、販売量の伸びは続く見込みである。
		電気機械器具製造業（広報担当）	・受注がある程度回復する。
		電気機械器具製造業（総務担当）	・自動車関連・家電及び産業用製品等の分野で生産計画の増加を予想している。人員を絞ってきた経緯もあり、当面時間外的大幅な増加で対応する。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・特に自動車関連の業務が少しずつ増えており、その他製造業においても生産は上向いている。この傾向はまだ続きそうである。
	変わらない	食料品製造業（総務担当）	・秋口から自社の新製品を売り出す計画があるが、売上が見込めるかどうか見通しが十分に立っていない。
		食料品製造業（業務担当）	・食品販売業界の商品価格の低下はまだ進む。
		鉄鋼業（総務担当）	・収益面では低位であるものの、薄鋼板の輸出を中心に数量が増加しており、稼働率が上昇している。
		金属製品製造業（総務担当）	・前年同期比50%以下の厳しい状況はこの先3か月も続くと思われ、今後も雇用調整助成金を受けていく。
		一般機械器具製造業（経営企画担当）	・国内、海外共に市場の冷え込みは当面続く見通しであり、需要回復の兆しは見られない。
		輸送用機械器具製造業（経理担当）	・政府の景気対策だけで、これ以上良くならない。
		建設業（経営者）	・総選挙のために飲食店関係が元気がなく、また回りの者に聞いても選挙の結果がどうあれ良くはならない、現状維持が精一杯だろうという声が多い。この悪い状況が、少々のごとで改善されるとは思えない。
		輸送業（統括）	・顧客の多くがサービス業であり、その顧客の売上が伸びないため改善は難しい。
		輸送業（運送担当）	・相当な景気回復の起爆剤となるようなことでもない限り、地方では景気回復は見込めない。
		通信業（営業企画担当）	・企業は、これから国政の変化による影響、具体的な政策が浸透するのに時間がかかることなどに配慮しなければならないが、現状で決定的に景気が悪くなる要因も発生していないため、今の状況が維持される。
		金融業（業界情報担当）	・依然として前年比7～8割程度の稼働率ではあるが、エコカーの好調な売行きが下支えとなり、生産は緩やかに回復していく。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		会計事務所（職員）	・製造業に関しては、やや動きが出てきそうな気配はあるものの、実際の受注に結び付いていない。また、具体的な契約段階となっても、相当な値引きを要求されるため、業績のばん回にまでは結び付かない。
	やや悪くなる		
	悪くなる	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	・地方の経済は大変疲弊しており、立ち直りに時間がかかることは間違いなく、これから企業の倒産も多数出てくる。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（支店長） 民間職業紹介機関（職員）	・底打ち感から、製造業の自動車や電子部品などの企業で、増員の話が出始めた。 ・製造業に動きが出始め、結果が出るのが2～3か月程度先の時期と考えられる。
	変わらない	人材派遣会社（支店長）	・人事採用計画で、欠員補充等での問い合わせが極端に少ない。
		人材派遣会社（支社長）	・雇用状況の改善は見込まれず、個人消費の回復も見込めない。
		人材派遣会社（営業担当）	・製造業の生産などは底を打ちつつある感はあるが、事務系・技能系共にそれが具体的な求人になかなか結び付いてこない。この状況はもうしばらく続く。
		職業安定所（職員）	・各企業への求人要請のなかで、特に来春の新卒予定者の採用については計画が立たない、また、計画を立てる時期が例年より遅くなるとの話が多く聞かれる。
		職業安定所（職員）	・雇用調整助成金等の申請状況から見ると、企業の休業による生産調整の件数、休業日数等に大きな増減はなく推移している。新たな申請は減少しているものの、10月以降休業日数を増やすという企業もあり、景気の回復の兆しは見えない。
		職業安定所（職員）	・景気は下げ止まりしているようにも思われるが、新規に休業を計画している中小企業は後を絶たない。景気の回復にはまだ時間がかかる。
		民間職業紹介機関（職員）	・一部の企業では残業、休日出勤の動きが出てきている。退職に伴う補充に慎重となっていた企業も採用活動を開始する傾向にある。しかしながら純増といえる採用活動はまだ少なく、消費を押し上げる要因には至らない。
	学校〔短期大学〕（就職担当）	・前年はこの時期にも求人があったが、今年は求人件数が非常に少なく、今後も期待はできない。	
やや悪くなる	求人情報誌製作会社（担当者） 職業安定所（雇用開発担当）	・業績と連動して採用数を確定する方針の企業が多いため、楽観的な予算編成ができない雰囲気である。 ・事業効率化のため、離職者を伴う事業所統廃合を計画している旨の相談件数が増加している。	
悪くなる	人材派遣会社（担当者）	・各企業の話によると、海外の状況に大きく依存している状態から考えると、どの企業も順調と思っではない。当然雇用も増やそうという雰囲気ではない。	

### 9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	乗用車販売店（従業員）	・政権交代により、ガソリン税や自動車重量税等の暫定税率廃止、高速道路料金原則無料化等が行われ、自動車の販売台数の増加につながることを期待している。
		観光型旅館（経営者）	・9月の予約状況は昨年よりかなり良いが、10月は前年並みの予想である。11月以降はまだ予測はできないが、全体として少し上向いている。四国全体ではまだ良くないので楽観はできないが、底は打ったという感じがしている。
		設計事務所（所長）	・緊急経済対策の効果が少しずつ現れてくると思う。ただし、総選挙の結果次第で不透明になる部分が多い。
	変わらない	百貨店（営業担当）	・相対的には、依然厳しい状況が継続しているが、ファッションおよびラグジュアリー商品群で、前年実績には及ばないが売上高の回復がうかがえるものがある。また、食品類についても回復傾向がみられる。来客数についても前年には及ばないものの改善傾向がみられる。
		百貨店（売場担当）	・所得は目減りしており購買意欲は上がらず、また新政権の政策の様子見で、すぐに景気向上には結びつかない。
スーパー（店長）		・前月に引き続き、消費低迷が続いており、各小売業はデフレ傾向にある。単価を下げた販売をしているが、それでも売上は非常に思わしくない。この状態がまだ続くであろう。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（店長）	・マスク等の新型インフルエンザ関連商品以外は売上が減っている。お客様の来店頻度や買上点数の減少から、節約志向はしばらく変わらない。
		スーパー（企画担当）	・政権交代すれば、個人向けの対策は実施されれば効果があると思うが、その反面で企業が苦しむ施策が多いので、直近の景気は変わらない。
		コンビニ（総務）	・周囲の経済状況に好転するような要因がないため、今よりも消費は厳しくなる。
		衣料品専門店（経営者）	・総選挙後の結果によるが、当面は様子見が続く。
		衣料品専門店（経営者）	・8月の客の購買意欲が、7月と違って非常に弱々しいと感じている。9月になっても、すぐにそれが大きく変わるのには難しいと思う。ただ、気温が低下して、秋の気配が早めに濃く出るようになれば、初秋物がそこそこ売れるのではないかと期待している。
		衣料品専門店（総務担当）	・現状の単価の動きからは回復が見込める状況にない。春夏商材に比べ単価の高いコート類を中心とした秋冬商材の動向が懸念される。景気の急激な回復が見込めない年内は、消費者の買い控えが続く。
		家電量販店（店長）	・今のところエコポイント制度により、テレビ、冷蔵庫が特に堅調に推移している。エコポイントの付与期限である来年3月末まではこの状況が続く。
		乗用車販売店（従業員）	・新型ハイブリッド車だけが注目を浴びており、全体的には不況時と変わらない状態が続いている。賃金・雇用などの問題が多く残っている限り景気の回復は望めない。
		乗用車販売店（従業員）	・現状でこれ以上良くなる要素が見当たらない。
		一般レストラン（経営者）	・冬のボーナスの期待感が薄いため、今後も買物を控える行動が続く。
		タクシー運転手	・地方では景気対策の影響はあまり感じられない。先行きも、9月の大型連休があるので、タクシーの利用は見込めない。
		タクシー運転手	・客の話等で、給料が下落したという声が多い。また、これまでは総選挙が終わると、人も出てきていたが、今年はあまり良い状況ではない。
		タクシー運転手	・例年では秋に四国遍路の仕事が増えるが、インフルエンザの流行が怖い。今春もインフルエンザの影響で、お遍路さんのキャンセルがあり、今秋は更に悪化する。
		通信会社（支店長）	・個人消費の悪化が影響し、来客数の動きは依然低調のままである。来月の状況も変化はないと考えている。
		通信会社（管理担当）	・携帯電話の2台目需要が画期的に伸長することはあまり期待できない。
		通信会社（企画）	・エコポイントによるデジタルテレビ買換え効果が、CATV業界には現れていない。他に好条件もないため現状と変わらない。
		ゴルフ場（従業員）	・季節的に来場者が増える時期だが、まだ予約状況は弱い。
		競艇場（職員）	・お盆レースやSGレースといった特殊要因があっても売上増加に至らない。
		美容室（経営者）	・総選挙の結果にかかわらず、急速に景気が回復するとは思えない。また、新型インフルエンザの再流行の懸念があり、外出を控えるなど消費動向に影響が出る。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・来街客の減少に歯止めがかからない状態になっている。構造的な問題で、流通業、商店街を取り巻く環境が、今後ますます厳しくなる。
		百貨店（販売促進担当）	・総選挙後、明るい見通しを感じるようになるのは年明け以降と考える。
		家電量販店（営業担当）	・テレビの販売状況は良いが、それも多少割安感のある物が主力である。全体的に現在の状況が続くものと考えている。
		乗用車販売店（役員）	・現在の乗用車販売は、補助金と減税効果に頼っている。政策により販売増にも販売減にもなる。政策効果がなくなれば悪くなる。
		その他専門店〔酒〕（経営者）	・夏のお中元時期が終わり、2～3か月先は今より少し悪くなる。
		都市型ホテル（経営者）	・宿泊、バンケットともに予約の状況が芳しくない。また、一般消費が鈍い状況はまだ続き、レストラン関係にも悪影響を及ぼすであろう。



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
	悪くなる	住宅販売会社（従業員）	・今年度の給与・賞与額が軒並み低下しているようなので、今後、住宅ローンの審査条件がより厳しくなり、市場が収縮すると考えられる。	
		商店街（代表者）	・今のところ良くなる外的要因はない。	
		一般小売店〔乾物〕（店員）	・百貨店やショッピングセンターではインフルエンザの影響が大きく、不要不急の買物に出かける客がかなり減る。	
		一般小売店〔酒〕（販売担当）	・地方都市では景気悪化、失業率の上昇が進んでいる。今からでも、それなりの法人に入社出来るのなら、即座に廃業すると言つ同業者、仕入先の声が増えた。	
		スーパー（店長）	・客は店をまわって安いものを買っているようである。何か起爆剤がないと売上が上昇しない。	
		住関連専門店（経営者）	・消費者の財布のひもが固く、販売量が毎月減少している。	
		旅行代理店（支店長）	・厚生労働省によるインフルエンザの流行宣言により、旅行先での感染不安が再び芽生えつつある。秋の旅行シーズンに向け旅行の手控えの懸念がある。10月以降、燃油サーチャージの再設定や上げがあり、海外旅行の需要低下の懸念もある。	
企業 動向 関連	良くなる やや良くなる	-	-	
		食料品製造業（従業員）	・冬場になると麺類の売行きが上がる。	
		パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・掃除関係の紙製品はこれから12月のシーズンに向かうので、受注が増加してくる。その上に除菌関係が増えてきている。	
		鉄鋼業（総務・人事統括）	・受注が本格回復する材料は見当たらない。しかし、収益面においては合理化・コスト削減等で底辺は脱した。見送り方向であった新卒採用も、将来を見据えて、見直す機運が出てきつつある。	
		建設業（総務担当）	・工場増設等の大型案件の引き合いが出ており、工事受注量は今後増加する。	
			広告代理店（経営者）	・現状、仕事量は増加している。ただし、利益率が悪いので、増益になるかどうかは分からない。
	変わらない		一般機械器具製造業（経理担当）	・首都圏では公共関連の土木工事が動き始めてきたが、地方では一時休業に追い込まれる取引先が現れるなど景気動向に地域間格差が見られ、底打ち感は感じ取れない。
			電気機械器具製造業（経営者）	・欧米での需要回復がみられない。
			電気機械器具製造業（経営者）	・8月中旬以降から、電子機械、製薬、化学、バイオ関係が少しずつ設備投資をするようになり、継続的に引き合いがある。
			輸送業（統括）	・取引先からはまだ明るい話は聞こえない。
			輸送業（社員）	・自動車関連企業及び家電メーカーを中心に経済対策の恩恵を受け、やや持ち直す傾向があるものの、消費全体の需要は依然として厳しい状況が続いている。今年度上期水準が下期以降も継続するものと判断している。
			通信業（部長）	・受注が増加する要素がなく、数か月先の好転は期待できない。購買商品についても低価格志向は続いており、新規投資にも慎重である。
			金融業（融資担当）	・客との話のなかで、明るい材料があまりないため、まだ景気回復傾向にはないと考える。
			不動産業（経営者）	・取引先や同業者の話によると、8月は非常に悪い。広告を出しても、また、オープンハウスを実施しても客の動きは鈍く、申込があっても、銀行融資が下りないことがある。今は、3千万円以上の個人住宅はほとんど売れず、引き合いがあるのは、2千万円以下の安い物件が中心である。
			広告代理店（経営者）	・得意先の業況不振により広告費削減の影響が続く。得意先のある仏壇店も、恒例の秋彼岸の売出し広告を今年は中止する。また、これまでは比較的削減が少なかった新聞の折込チラシも削減されてきている。したがって厳しい状況が継続する。
やや悪くなる		通信業（営業担当）	・多くの自動車ディーラーの営業マンから聞いた話によると、7～8月中旬までは政府の各種経済対策の効果、特にエコカー減税の効果で自動車の買換え需要が伸びていたが、9月以降は引き続き需要が続くか心配である、とのことで、急に話題が暗くなりつつある。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	悪くなる	公認会計士	・各関与先の社長と話をすると、長雨の影響が非常に大きいようであり、不動産、建設、一般小売に至るまで、見通しは非常に暗い。
		建設業（経営者）	・政権交代があると、若干増えつつある公共事業が今後は減る。
		輸送業（経営者）	・売上は減少傾向にある。また、政局への不安が国民の財布のひもを固くする。
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	求人情報誌製作会社（編集者）	・取引先の中小企業が、人材育成に伴う助成金を活用した研修商品を投入するため、今後、徐々にではあるが回復に向かう。
	変わらない	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・夏季賞与の減で、所得の目減りが確定し、消費者は一層家計防衛に走る。
		職業安定所（職員）	・製造業では、一部回復感もあるものの、設備投資にまで発展していない。介護・医療分野での求人は増加しているが、求職者とのミスマッチが生じている。
		民間職業紹介機関（所長）	・業種を問わず、まだまだ景気の高揚感を感じられない。むしろ事業の再構築を考えている企業が多く、その一環として人員整理を考えている企業もある。
	やや悪くなる	職業安定所（職員）	・相変わらず雇用調整助成金の申請件数が多く、地元大手企業からの問い合わせもある。
		職業安定所（職員）	・企業の倒産や廃業は、緊急雇用対策や緊急保証制度により低水準で推移してきたが、このところ増加傾向にあり、解雇者は増加し、有効求職者数は前年同月比20%超の増となっている。さらなる企業の人員整理の危惧がある。
学校〔大学〕（就職担当）		・企業などから送られてくる求人情数は、前年の同時期と比べ少ない。求人情数の累計は、昨年8月の640件に対し、今年は523件で約20%少ない。求人数の累計は、昨年8月の4,641人に対し、今年は3,158人で約30%少ない。	
悪くなる	求人情報誌製作会社（従業員）	・不景気により企業が採用を控えている。	

10. 九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由	
家計 動向 関連	良くなる			
	やや良くなる	商店街（代表者）	・例年人が動く時期であるが、今年も販売量は増えており、今よりも良くなる。	
		商店街（代表者）	・景気は底打ち感があり、これからは秋口に向けて少しずつ回復傾向に向かう。	
		一般小売店〔生花〕（経営者）	・暑い時期を過ぎるとギフトとしての花の需要も増え、売上は今年も例年通り増える。	
		百貨店（営業担当）	・米国の大手金融機関の破たんの影響が一巡しており、今後の消費拡大に期待できる。	
		百貨店（営業企画担当）	・一部の企業や特化された分野は好調に推移していると報じられており、一般の消費者への影響も少しずつ好転する。	
		乗用車販売店（従業員）	・決算時期を迎えるため、エコカー減税や補助金効果を最大限客にアピールすれば、販売台数の伸長に期待できる。	
		その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・これから秋冬の商戦で需要が増えるため、売上が若干上がる。購入量、客単価も平均で1.5倍程度増える時期となる。	
		高級レストラン（専務）	・今が最悪の時期であり、今よりは少し良くなる。	
		一般レストラン（経営者）	・2、3か月後は盆時期の来客数の減少や総選挙等の足かせ要因がないため、売上は上がる。飲食業、旅行業は来客数が増えるトップシーズンの前後の時期となるため、これから上向く。	
		都市型ホテル（スタッフ）	・総選挙が終わり、停滞していた人の動きが出てくるので良くなる。	
		ゴルフ場（支配人）	・総選挙後の景気対策に刺激を受け、短期的かもしれないが消費は活発になる。	
		変わらない	商店街（代表者）	・総選挙後の状況は不透明で景気回復は感じられない。
			商店街（代表者）	・商店街では定額給付金の効果はそれほどみられない。飲食店関係は大変悪く、客単価も低い。高額商品がなかなか売れない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		商店街（代表者）	・変わらず悪い商況が続く。冷夏による夏物の売行き不振や総選挙による来街者の減少、客単価の落ち込みで厳しい状態が続いている。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・涼しい季節になり例年少しずつ売上は上がる時期であるが、消費者にとって、景気回復の材料はなく、小売店にとっても厳しい状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・将来への不安から、必要な商品、お得な商品、エコ関連以外の商品に対する購買意欲が減退している。一方、プレミアム付き商品券やエコポイント商品、省エネライト等への関心が高い。秋物紳士、婦人衣料への購買意欲は今一歩である。
		百貨店（売場担当）	・来客数は今月の水準を継続する。前年は9月の中旬に米国の大手金融機関の破たんがあり、それ以降前年比8～9ポイントほど減少している状況が続いている。1年経過し、これまでのような減少はなくなる。消費マインドが更に悪化する要因はない。
		百貨店（業務担当）	・景気の各指標の下げ止まり感が報じられているが、客の様子は変わっていない。どちらかという、先行き不安により、ガードが固くなっており、消費の回復にはまだまだ時間がかかる。
		スーパー（経営者）	・総選挙により先行きがみえず、全体的な相場高が影響してくる。
		スーパー（店長）	・2、3か月は現状と同様に衣料品を中心に節約型消費となる。食料品に関しても野菜を中心に高騰が続いており、期待できない。今後は牛肉と青果の相場が心配である。
		スーパー（店長）	・ボーナスの支給から中元時期までギフトは横ばいで推移したが、通常の商品の買上量の減少がずっと続いている。
		スーパー（店長）	・売上が前年を上回るの容易でない状況である。現在の店頭状況を見ると、今後もこの状況が継続する可能性が高い。
		スーパー（店長）	・米国の大手金融機関の破たんの影響が一巡するのは12月ごろと推測されるが、賞与を含めた所得の減少があり、売上の増加は見込めない。競合店との価格競争の激化により、利益も出にくくなっている。いずれにしても小売では加工食品、衣料品などの単価が下がり、売上の回復には時間が掛かる。
		スーパー（店長）	・企業努力で経費削減を実施するも商品の価格帯が低下しており、利益の圧迫が予想される。所得が減少する可能性が高く、個人消費はあまり伸びない。
		スーパー（総務担当）	・同業他社を含め、今後しばらくは価格競争が続く。売上、利益共に飛躍的な改善は見込めない。
		スーパー（企画担当）	・製造業を中心に景気回復の兆しはあるものの、末端消費者の景気は依然回復しないことから、低価格購買や買い控えの傾向は継続する。7、8月の天候不良による秋の作物の不良も懸念されるため、依然として厳しい状況が続く。
		スーパー（経理担当）	・大きなプラス要因もなく、6月後半から売上の下降傾向が続いており、今後容易に回復はしない。
		コンビニ（エリア担当）	・家計が良くならない限り、コンビニ業界は厳しい状況が続く。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・来客数は変わらないが、客単価は低下傾向にある。客単価が上昇すれば景気は回復していると考えられるが、まだまだその傾向はみえない。2、3か月の間に回復はしない。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・9月は大型連休があり、10、11月も好調に推移すると期待されるが、前年の10、11月が年間のなかでも売上が大きく伸びた月であったので、その反動を考えると前年比ではあまり変わらない。
		衣料品専門店（経営者）	・例年9月の動きは悪いが、秋物が動き出すと少しは良くなる。政権交代で消費者の気持ちが前向きになり、来客数はわずかながら増える。
		家電量販店（総務担当）	・好転する要因が見つからない。
		乗用車販売店（販売担当）	・3か月先どういう状況になるのかわからない不透明であり、販売量、来客数をみながら、販売量を調整する必要がある。
		乗用車販売店（管理担当）	・新政権による不透明感はあるが、エコカー減税、補助金制度がある間は受注販売は良いまま推移する。ただ下取り車が少なくなっており、中古車の販売は厳しい状況である。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・政権が代わり、景気が良くなることに期待したいが、先行きは不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	・失業率が上昇しており、雇用不安が拭かれず客の消費マインドは上がらない。一方、9月の大型連休、10月の3連休は消費者の買物行動、レジャー行動に期待できる。
		その他小売の動向を把握できる者（ショッピングセンター支配人）	・政治の不安定と生活関連以外のカテゴリー商品の買い控えが継続するため変わらない。
		スナック（経営者）	・客の様子をみると、先行きに不安を感じながら生活する状況が続いており、見通しは厳しい。
		その他飲食〔居酒屋〕（店長）	・どんなことをやっても客に足を運んでももらえない。開店して31年になる居酒屋であるが、こんな時代が来るとは思いもなかった。従業員を抱えており、閉店するわけにもいかず、厳しい状況が続く。
		都市型ホテル	・予約状況を見ると、月により変動がある。9月は鈍化傾向であるが、10、11月は前年並みで推移する。総じて横ばいで推移する。
		都市型ホテル（総支配人）	・新型インフルエンザの影響により、来客数は変わらないが、減少傾向になる。
		旅行代理店（業務担当）	・景気は今以上には悪くならないが、新型インフルエンザの感染拡大に伴う旅行自粛ムードの広がり懸念される。
		タクシー運転手	・大手企業の動きはいいが、市内の中小企業の動きが大変悪く、タクシーの予約率、稼働率は共に大変悪い。最近になってリストラの話も多く聞かれるようになっており、今後も厳しい状況が続く。
		通信会社（管理担当）	・良くも悪くも急速に変化する要素が見当たらない。
		通信会社（営業担当）	・ここ1年、携帯電話の購入数が減ってきており、今後も変わらない。
		通信会社（総務担当）	・総選挙も終わり、一部で良くなるという報道もあるが、依然として先行きは不透明である。当社事業も一部景気の影響を受けるものの、サービス内容を良くし、1人でも多く加入者を増やすことが重要となっている。
		通信会社（業務担当）	・9月は敬老の日のシルバー特需はあるものの、今後は需要の頭打ちと買換えサイクルの長期化のため来客数は少なく、販売数も伸びない。
		通信会社（企画担当）	・販売インセンティブ競争の構造は、このまま大きくは変わらない。
		テーマパーク（職員）	・10月以降についてはゴルフやスポーツキャンプなどの予約が入るが、現時点では例年以上の伸びは期待できない。9月の大型連休については前年より予約数が伸びている。
		ゴルフ場（従業員）	・予約状況は9～11月までは横ばいで推移している。それも単価を下げたイベント等によるものである。客が辛抱しながらプレイ代が安いゴルフ場を利用している状況で、景況感是不変変わらない。
		理容室（経営者）	・暑さが続かないと来店サイクルが長くなり、どうしても売上が落ち込む。これから涼しくなると来店サイクルが今以上に長くなるため、悪い状況は変わらない。
		美容室（店長）	・総選挙が近づいているが、現実には景気がすぐ良くなることはない。今は現状維持ができればいい方である。
		音楽教室	・不安定な企業が多く、今後も今と変わらない。
		設計事務所（所長）	・新規の仕事がほとんどない。
		設計事務所（所長）	・相変わらず学校の耐震診断ばかりで、他に新しい企画や設計依頼がないので、現状維持が続く。
		住宅販売会社（従業員）	・不況感の払しょく材料に乏しい。
	やや悪くなる	商店街（代表者）	・政権交代でこの1年は一段と混乱する。
		商店街（代表者）	・政局がかなり変化するので、しばらくは様子見である。
		商店街（代表者）	・政権交代により政治、外交、経済等が改革されるが、それには多くの時間がかかるため、悪い状況が続く。
		百貨店（営業担当）	・各企業で給料、ボーナスの削減が増えており、今後この傾向はますます強くなる。
		百貨店（営業担当）	・客単価の低下や商品単価の低下が今後も続く。
		百貨店（企画）	・米国の大手金融機関の破たんから1年が経過したが、客はますます低価格志向となっている。低価格に慣れると可処分所得の増加等急激な変化が起こらない限り、そこから脱却するのは難しく、今後も客の低価格志向は続く。小売業では客単価の減少により、売上総額も縮小する。
		スーパー（店長）	・消費者の消費意欲が向上せず、景気回復が見込めないなか、競合店との価格競争が消耗戦の様相を呈している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		スーパー（総務担当）	・政権交代により政治的な混乱が発生し、緊急対策がどこまで効果を出すか不透明な状況である。
		コンビニ（エリア担当・店長）	・たばこのタスポ効果が薄れ、秋に向かい気温も下がっており、今後、来客数が増える要素はない。
		コンビニ（販売促進担当）	・夏の賞与削減や雇用環境の悪化で個人消費は盛り上がり欠ける。物価が継続して下がるデフレ傾向が鮮明となっており、価格の引き下げの動きがこのまま続けば、会社の業績が冷え込む可能性がある。
		家電量販店（店員）	・ここ数か月、景気が回復基調にあったが、今回の総選挙による政権交代で消費者の先行き不安感が強まり、悪くなる。
		家電量販店（店員）	・天候が悪く、本来夏に売れるべきエアコンが売れず、薄型テレビ等のAV機器や冷蔵庫を先行して販売してきた。その結果、秋の需要を刈り取ってしまっており、家電量販店はこれから悪くなる傾向にある。
		乗用車販売店（従業員）	・部品の販売量が増えず、今後もこの状況が続く。
		住関連専門店（経営者）	・総選挙で景気回復の期待感はあるものの、しばらくは経済の混乱があり、消費は低迷する。
		高級レストラン（支配人）	・ここ数か月は売上の伸びがみられたが、春先と同じく新型インフルエンザの影響で客は減るため、やや悪くなる。
		観光型旅館	・客の節約志向は強まっており、誘客のために価格を下げても、余った予算は消費には回らないのが現状である。今後もこの状況が続く。
		観光型ホテル（営業担当）	・新型インフルエンザの大流行の影響が、これからシーズンとなる秋の修学旅行等に出る可能性がある。
		旅行代理店（従業員）	・10月以降の燃油サーチャージ復活の影響で9月は駆け込み需要があるが、売れているのは低価格商品である。また10月以降はその反動で予約状況は悪い。新型インフルエンザの二次流行により、沖縄方面の団体旅行にキャンセルが出ている。
		タクシー運転手	・団体旅行者や自家用車は増えていおるが、タクシー利用は減っており、経費節約で会社の利用も減っている。今後もこの状況が続く。
		タクシー運転手	・消費者は収入が減っており、金を使う機会を減らしている。
		悪くなる	
衣料品専門店（店長）	・政権交代により景気が良くなる兆しなく、失業率も高いため、消費者の購買意欲は今後上がらない。		
自動車備品販売店（従業員）	・ETC関連商品の好調な販売動向は9月の大型連休までの見込みであり、それ以降は落ち込む。		
高級レストラン（経営者）	・今後の予約状況をみても動きが悪い。企業接待が多い店であり、選挙や世の中の動向を見る限りでは、先行きが不安である。		
都市型ホテル（副支配人）	・新型インフルエンザの影響により学生の団体客や教育旅行関係が非常に神経質となっており、キャンセルがでる可能性が高い。		
美容室（経営者）	・総選挙や新型インフルエンザの発生等により、外出を控える客が多くなる。景気は悪く、倒産する個人商店や企業も多くなるため、今後も厳しい状況が続く。		
企業動向関連	良くなる やや良くなる	-	-
		食料品製造業（経営者）	・最近、新商品を発売し、売れていない商品の見直しを進めており、その効果が出ている。今後はやや良くなる。
		金属製品製造業（企画担当）	・7、8月は一時帰休を実施したが、生産量が少しずつ上向いており、9月は一時帰休を行わなくてもよさそうである。
		一般機械器具製造業（経営者）	・9、10月以降にかけて、引き合い案件が増えつつある。しかし引き合い案件の業種が限られているため、競争は激しくなるばかりである。
		電気機械器具製造業（経営者）	・半導体の動きは今後、受注の見通しが立っており、やや良くなる。太陽光関係も具体的に商談が入る可能性が高く、良くなっていく。
		輸送用機械器具製造業（営業担当）	・3か月先の受注量予測をみると、若干ではあるが現状より受注が増加する傾向にある。
		通信業（経理担当）	・今回の選挙の注目度を見ると、国民の次期政権への期待は非常に高い。それだけ日本が変わろうとしており、日本の活力は前よりも高まる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	変わらない	金融業（得意先担当）	・現状は大きな発注量はないが、県を始めとした公共工事の前倒し発注が動き始めており、今後発注量の増加に伴う受注量の増加が見込まれる。
		新聞社（広告）	・総選挙の結果次第であるが、第1四半期のような落ち込みにはならない。
		経営コンサルタント	・農業を中心とした新しい分野での仕事を開拓する余地がどんどん出ている。
	農林水産業（経営者）	・秋口にかけては不足傾向であった原料加工も目途が付き、生産は安定する。販売に関しては、特に冷食加工メーカー等の年末需要に対する生産が始まり、ある程度期待できる。スーパー、居酒屋関連等も季節的に良い時期になるので、消費は伸びる。	
	農林水産業（従業者）	・現在販売価格が非常に厳しい。一方で豊作により、飼料価格は緩んでいる。	
	農林水産業（営業）	・これから2、3か月においても各家庭の収入状況は変わらないので、生活用品、食品に関して動きが良くなるとは思えない。悪くなることはないが今の底の状態が続く。	
	家具製造業（従業者）	・今後の設計物件が極端に減っている。マンション業者は在庫販売に力を入れており、これから先の新規物件は非常に少ない。実際に今後1年間は新規物件がない状況であり、先行きがみえない。	
	窯業・土石製品製造業（経営者）	・秋口になっても受注関係は思わしくなく、このまま推移する。例年、焼物業界は秋口に商品が動くが、今年は消費動向がつかめず、厳しい状況が続く。	
	鉄鋼業（経営者）	・一部の業種には、海外需要が回復したことによる底入れがみられるが、100%国内需要に頼っている建材業界では、新規設備投資の縮小や凍結、マンション需要の頭打ち、個人消費の低迷による新規商業施設建設の先延ばしや取り消しなど、需要の回復傾向が見受けられない。国内全般の景気が底入れしない限り、需要の低迷は当分続く。	
	一般機械器具製造業（経営者）	・今以上の落ち込みはないという意味で変わらない。ただ、3か月前と違い、回復の期待感が持てるような話も少しずつではあるが出てきており、少しは改善する。	
	電気機械器具製造業（経営者）	・大手、中小企業で受注状況についての話し合いを行っているが、電子部品関連においては、全般的に不透明感が増しており、今後回復するという期待は大手も中小企業も持っていない。逆に景気の2番底がくるのではないかという話もあり、将来に対する不透明感が増している。	
	建設業（総務担当）	・貸家や空き店舗が多くなっているが、その改築工事、改装工事の依頼は少ない。公営住宅に移っている消費者が多く、賃貸住宅の入居者がいない。	
	輸送業	・総選挙の結果によっては、何らかの変化があると考えられるが、我々のトラック運送事業にどのような影響が出るのか不透明である。	
	輸送業（従業者）	・今月より動きが良くなるような材料はない。	
	金融業（営業職渉外係）	・景気は回復傾向と政府は言っていたが、地方の景気は全く回復しておらず、消費者は景気回復の実感がない。政府は早急に対策を練り、目に見える形で政策を実行する必要がある。	
	金融業（営業担当）	・新型インフルエンザへの警戒感が高まり、消費低迷への大きな影響は否めない。	
	経営コンサルタント	・車、電化製品等一部の業界で持ち直していると言われてはいるが、地方での観光やサービス業についてはかなり厳しい状況である。政権交代により国民の考え方が変わると考えられるが、特に地方経済はかなり厳しい状態が続く。2、3か月で改善できるような状況ではない。	
	経営コンサルタント（代表取締役）	・取引先及び当社受注状況から2～3か月では好転しない。	
	やや悪くなる	食料品製造業（経営者）	・納入先の来客数が確実に減少しており、前年を大きく下回っている。秋には新型インフルエンザの流行も予想されており、来客数の減少に拍車がかかりそうな状況である。
		輸送用機械器具製造業（経営者）	・北米の自動車購入助成制度が8月で打ち切りになったので、北米の自動車販売台数が下がる。今後はやや悪くなる。
輸送業（総務担当）		・全体的な荷動きが良くなく、悪い状態が続く。	
	通信業（職員）	・部門単位では大型件名の受注もあり、現時点の受注金額は標準進捗レベルを確保できているが、下期からは若干厳しい状況になる。会社全体では更に厳しい状況となる。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		金融業	・大企業の生産が回復してきたとの情報から、中小企業の秋口以降の受注増を期待している。しかし具体的な受注はなく、全く見通しは立たない。もし現在の受注状況が続けば、いよいよ資金繰りはひっ迫し、倒産が増加する可能性もある。
		不動産業（従業員）	・商業施設の売上の前年割れが今後も続く傾向にある。
		経営コンサルタント	・取引先の売上は前年比10%マイナスで推移する。今後も厳しい状況となる。
		その他サービス業〔物 品リース〕（従業員）	・政権交代が実現し、景気対策等への期待はあるものの、施策実現までには相当の日数がかかるものと予想され、当面は今以上に停滞する。先行きの不透明感が強まると懸念される。
悪くなる		建設業（従業員）	・見積案件は数多くあるが、競争が激しいため、受注までには結びつかない。また企業、個人共に設備投資を控えている。さらにマンション建設にも陰りが見え始めている。
		不動産業	・マンションは建築したが売れない状況となっており、建設会社が倒産する恐れがある。売れないマンションの税金負担や管理費、修繕積立金等の支払により、所有者やマンション管理などが回らなくなる。
		広告代理店（従業員）	・8月の折込枚数は前年比80%と連続18か月前年割れが続いている。9月の受注状況をみても増加の兆しが無い。全業種で前年を下回っている。経済政策で株価は上昇しているようだが、消費者の購買意欲は元には戻っていない。
		その他サービス業	・市町村の財政事情が悪いため、なるべく発注時の予算を低くしようとしている。入札等で受注する業者も、最低の価格で応札しており、利益が出ず、採算割れに近い形で受注する傾向に拍車がかかっている。この状況はさらに深刻になる。
雇用 関連	良くなる やや良くなる	-	-
		新聞社〔求人広告〕 （担当者）	・取引先では夏物の売行きが悪く、9月以降も新型インフルエンザの流行などを心配する声も多い。しかし政権交代により、期待と不安が入り混じるものの、やや良くなる。
		職業安定所（職員）	・経済対策の効果が期待できる。
		学校〔専門学校〕（就 職担当）	・企業の話聞く限りでは、やや良くなる。
		学校〔専門学校〕（就 職担当）	・政府でも雇用改善に対して取り組んでおり、やや良くなる。
		変わらない	人材派遣会社（社員）
	人材派遣会社（社員）		・企業自体に元気がなく、求人するほどの改善はしていない状態が続いている。
	人材派遣会社（管理担 当）		・景気悪化の下げ止まりは感じられるものの、発注案件数は好転せず、楽観視はできない。同業他社の廃業の話も継続して耳に入っている。
	求人情報誌製作会社 （編集者）		・2011年の博多駅のリニューアルオープンの影響で動きがあり、新規求人が発生している。業界が少し活性化する。
	職業安定所（職員）		・事業主都合による離職者は減少傾向にあるが、零細事業所においては収益悪化による解雇者が発生している。ある程度の規模の事業所閉鎖等の情報もあり、雇用失業情勢については今後も注視する必要がある。
	職業安定所（職員）		・新規求職者数は今年度に入っても増加基調は変わらず、また新規求人数は減少傾向にある。
	職業安定所（職員）		・新規求人数にいくらか明るい兆しが見えてきたものの、事業主都合の離職者は増加しており、新規の求職者数が増加している。
	民間職業紹介機関（職 員）		・求人数については大幅に下落している。悪いながらも獲得できていた若手層の求人も減少しており、求職者を受け入れる企業の業績回復なしでは雇用の安定化は厳しい。
	やや悪くなる	学校〔大学〕（就職担 当者）	・平成22年3月卒業予定者に対する求人数については、改善の期待はできず、大きな変化はない。ただし平成23年3月卒業予定者に対しては、企業からの採用情報が少し動き出すことが予想される。
人材派遣会社（社員）		・政権交代による期待はあるが、実際に市場に効果が出るのは半年以上先と見込まれ、年内まで悪化の状況を抜け出せない。	

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		職業安定所（職員）	・失業率が5.7%と過去最悪を更新した。有効求人倍率は更に悪化している。失業の増加が個人消費を低下させ、それが設備投資や雇用の更なる削減を生みデフレの悪循環にある。雇用調整助成金は250万人もの雇用を支え、失業者の増加を抑えていてもこの惨状である。雇用の悪化、収入の減少、物価の下落及び世界経済も不況下にあり、景気が良くなる要素は今のところ見当たらない。
	悪くなる	新聞社〔求人広告〕（担当者） 民間職業紹介機関（社員） 民間職業紹介機関（支店長）	・底を打ったものの、好転する材料に乏しい。企業は政権交代により、さまざまな事象の様子見をしているようである。 ・都市圏で単発案件は前月比10%程度増加しているが、地方ではそのような動きもない。企業の直接雇用化の動きもあるが、正社員のリストラを始めた企業もあり、求人が上向く気配はない。 ・製造業がやや持ち直してきた感があるものの、求人の増加、派遣需要の増加に転じるには、3か月から6か月を要する。依然厳しい状況が続く。

### 11. 沖縄（地域別調査機関：（財）南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	コンビニ（経営者）	・競合店の出店が一巡し、セール企画の効果が上向いてきている。
		衣料品専門店（経営者）	・徐々にではあるが、来客数が増えてきている。販売単価、点数共に下げ止まり感がある。
		通信会社（店長）	・販売数が徐々に上向いており、今後も期待できる。
		通信会社（店長）	・前々年より始まった割賦販売が年末に24か月目となり、割賦が終わった時点で機種変更を考える客が増え、同時に新商品も発売されるので市場が活発化する。
	変わらない	百貨店（営業担当）	・総選挙の結果などを踏まえて変化への期待感等から景気に好影響が出ることも考えられるが、新型インフルエンザ問題によって外出を控える動きもあり、個人消費に関して当面は慎重な姿勢に変わりはない。
		コンビニ（経営者）	・前年は、平日か休日かによって来客数が変わっていたが、今年は予測がつきにくいので、発注等に気を遣う。
		その他専門店〔書籍〕（店長）	・やはり「本離れ」が進んでおり、コミック、雑誌も売上減が目立ち発行部数も減ってきている。政府も「読書年」とうたってCM等を流してはいるものの、具体的に活動が見られない。
		旅行代理店（代表取締役）	・新型インフルエンザの流行により、せっかく上向いてきた行楽景気が懸念される。
		ゴルフ場（経営者）	・いったん下げた単価を上げるのは非常に難しい。当面3か月はこのままの形で変化は無い。半年から1年くらいかけて上げていかないといけない。
		住宅販売会社（商品開発担当）	・今の流れは良いが、不動産業界全体では落ち込んでいるのでしばらく様子を見る必要がある。
	やや悪くなる	一般小売店〔鞆・袋物〕（経営者）	・新型インフルエンザの流行のせいか、できるだけ動かないような雰囲気がある。県外への出張や旅行等にも、より慎重になっている。商品購買、買う方に関してもよりできるだけ安い物を客は求める傾向にある。
		コンビニ（エリア担当）	・新型インフルエンザの流行で観光客の減少が予測される。絶対数が減ることで、悪循環の影響を受ける店舗が出てくる。
		コンビニ（エリア担当）	・景気の底打ち感は現場では感じられない。加えて新型インフルエンザの拡大により、観光客の入域への影響が懸念される。
その他専門店〔楽器〕（経営者） 観光型ホテル（マーケティング担当）		・9月の大型連休だけは期待できそうである。それ以外は非常に厳しい状況になる。 ・予約が更に遅くなってきている状況や新型インフルエンザの流行によるキャンセルが今後懸念される。また前年度は無かった9月の大型連休に期待はするものの、ここだけでは大きくカバーできない。	



分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		観光名所（職員）	・ 8月からの沖縄県内における新型インフルエンザの感染拡大、また国内景気の停滞感等から、県外からの入域観光客に頼る沖縄観光は厳しい状況が予想される。特に新型インフルエンザの感染拡大による修学旅行等の団体旅行のキャンセルが予想される。
	悪くなる	商店街（代表者）	・ 今月から新型インフルエンザが流行しているため、観光関連もブレーキがかかるのではないかと、地元客も出かけるのを控えるか、という懸念をしている。
		その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・ 少し上向きかけてきたときに、新型インフルエンザのまん延で地元客の外出が控えられて、入客の減少が続くそうである。
		観光型ホテル（総支配人）	・ 新型インフルエンザの風評でキャンセルが出始めている。旅行控えが懸念される。
		その他のサービス〔レンタカー〕（営業担当）	・ 沖縄県がインフルエンザ流行警報を発令した直後から、9月以降の予約のキャンセルが出始め、特に9月の大型連休のキャンセルがかなり出ている状況にある。
企業動向 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	食料品製造業（管理部門）	・ 一部の主原料価格が下がり、円高状況が続いている。
	変わらない	輸送業（代表者）	・ 公共工事の発注時期でもあり大きな落ち込みは無いが、民間事業への期待が難しい。
		会計事務所（所長）	・ 今後の景気対策の内容が明瞭ではない。
	やや悪くなる	窯業・土石製品製造業（経営者）	・ 工事予定物件の減少及び建築確認申請の遅れによる工事着工件数減少の影響が、今後徐々に強くなる。
		輸送業（営業担当）	・ 新型インフルエンザが流行しており観光客数減や、県民の活動が鈍ることが予想される。
		通信業（営業担当）	・ 新たな契約案件等の話は無く、案件が出てくるまで国等の雇用調整助成金で社員教育等を行っている会社が増えている状況を考慮すると、今後2、3か月先は「やや悪くなる」と予測することが妥当である。
		広告代理店（営業担当）	・ 観光産業に支えられる本県においては、入域観光客数の減少傾向が続くなか、新型インフルエンザの影響による更なるダメージを想定すると、先行きは厳しい状況となることが推測されるため、県内企業の販促活動も停滞する可能性が高い。
		コピーサービス業（営業担当）	・ 受注量の減少でやや悪くなる。
	悪くなる	-	-
雇用 関連	良くなる	-	-
	やや良くなる	-	-
	変わらない	職業安定所（職員）	・ 先行き不安定な景気状況において、事業所における従業員の新規採用に慎重であり、派遣、請負業者の雇止め傾向も見られる。減少傾向にて推移する。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	・ 一部の業界で持ち直しのニュースがあるものの、依然として雇用環境は厳しい状況に置かれている。
	やや悪くなる	民間職業紹介所（人材紹介担当）	・ 現在、沖縄県は新型インフルエンザが流行している。今後もこの状況が続けば、当然、観光客数が減少する。観光立県の沖縄は観光業界の落ち込みが経済状況に影響を与えることを考えると、景気は悪くなる。
		学校〔大学〕（就職担当）	・ 企業を回っていると、県内企業の求人者の停滞が年央以降、だんだん顕著になる感を受ける。
	悪くなる	-	-